

センター文法・語法スーパーチェック

目次

英文法・語法スーパーチェック …… 7 ページ

【1】「文型・動詞の語法」のポイント …… 7 ページ

1. ask の語法
2. hope の語法
3. help の語法
4. remind の語法
5. suggest の語法
6. 意外な do の語法
7. lie と lay の語法
8. いろいろな「言う」の語法
9. sit と seat の語法
10. wait の語法
11. owe の語法
12. blame の語法
13. provide の語法
14. complain の語法
15. apologize の語法
16. 「S+Vt+O+to do_C[原形]〜」の型をとる他動詞
17. 「S+V+O+to do_C[原形]〜」の型をとりそうでとれない他動詞
18. 「自動詞と間違えやすい他動詞」と「他動詞と間違えやすい自動詞」
19. 注意すべき「SVOO」をとる他動詞
20. 「使役動詞」の語法
21. 「知覚動詞」が作る「SVOC」
22. 「知覚動詞+O+do_C[原形]〜」の受動態のパターン
23. 「人」を目的語にとれない(伝達)動詞
24. 意外な意味になる動詞

【2】「時制」のポイント ……18ページ

1. 進行形にできない動詞がある
2. 過去進行形
3. 時・条件の副詞節中の時制に関して
4. 現在完了(have+p.p.)の持つ意味
5. 現在完了(have+p.p.)と共に使ってはいけない語句
6. 過去完了(had+p.p.)の頻出2パターン
7. 「彼の叔母さんが死んで3年になります」の書き換え

【3】「形容詞」のポイント ……22ページ

1. 意味を混同しやすい形容詞
2. 前から名詞を修飾できない形容詞
3. 「人」を主語にとれない形容詞
4. 「人(能力を持つ者)」を必ず主語にとる形容詞
5. 「～ごとに(1回)」という意味の every

【4】「仮定法」のポイント ……24ページ

1. 仮定法の基本公式とその整理
2. 仮定法の if が省略されると、条件節は「疑問文と同じ語順」になる
3. 仮定法を用いた慣用表現

【5】「前置詞」のポイント ……27ページ

1. at と in と on の使い分け
2. till[until] と by の使い分け
3. for と during の使い分け
4. in と after の使い分け
5. beside と besides の使い分け
6. 意外な前置詞の意味
7. 前置詞の後には「名詞」が基本。「S+V」「不定詞」「動詞」等はこれない
8. 群前置詞

【6】「動名詞」「不定詞」のポイント ……30ページ

1. 目的語に不定詞だけをとる他動詞
2. 目的語に動名詞だけをとる他動詞
3. 不定詞、動名詞両方目的語に取れるが、どちらを取ったかで意味が変わる他動詞
4. 動名詞を用いた慣用表現
5. 「to+doing～」のイディオム
6. 頻出の独立不定詞
7. 代不定詞

8.It is 形容詞 of A(人) to do[原形]～.

9.動名詞・不定詞・分詞 全てこれらを否定する場合、否定語(not等)はその前に置く

10.結果の不定詞

11.tough構文(直前の形容詞を限定する不定詞)

12.完了不定詞・完了動名詞

【7】「副詞」のポイント ……36ページ

1.「ほとんどのA/Aのほとんど(大半)」

2.「Sもまた～だ」「Sもまた～ない」

3.-ly が付く形と付かない形で意味が異なる副詞

4.「あまりに～」という意味の too の強調は「much[far] too」

【8】「語順・英文構成」のポイント ……38ページ

1.間接疑問文の語順に注意

2.副詞の「so」「as」「how」「too」の直後に冠詞の「a」は置けない

3.A(形容詞・副詞)+ enough to do[原形]～ で「～するほど十分Aだ」

4. However $\left\{ \begin{array}{l} \text{(形)} \\ \text{(副)} \end{array} \right\}$ S+[may]+V,で「たとえどんなにSが～しようとも」
[No matter how]

5.(準)否定の副詞が文頭に出ると、その後ろの主節は「疑問文の語順」になる

6.do you think[suppose/believe] と do you know の位置が狙われることがある

7.「他動詞+代名詞+副詞」の語順に注意

8.「⑤+⑥ so ～ that S+V…」と「⑤+be動詞 such that S+V…」の「so～」と「such」の部分が文頭に飛び出すと、主節部分は「疑問文の語順」になる

【9】「助動詞」のポイント ……40ページ

1.needには、助動詞の need と(一般)動詞の need がある

2.助動詞+have+p.p.～

3.「not」の位置に注意すべき助動詞

4.should の注意すべき用法3パターン

5.その他の助動詞と助動詞を用いた慣用表現

【10】「分詞」のポイント ……42ページ

1.文法問題における分詞の選び方の基本

2.「感情」「被害」を表す動詞の分詞形に注意せよ

3.with O C 構文。「OがCの状態で」

4.間違えやすい分詞構文(特に過去分詞で始まる分詞構文等)

【11】「名詞」のポイント ……44ページ

- 1.頻出の不可算名詞(数えられない名詞)
- 2.必ず複数形を用いなければならない表現
- 3.a people/ peoples は「民族」「国民」
- 4.of+抽象名詞 は形容詞化する
- 5.with+抽象名詞 は副詞化する
- 6.数詞を含む形容詞には複数の「s」はつけない。
- 7.have the+抽象名詞 to do^[願]～で「〇〇にも～する」

【12】「関係詞」のポイント ……47ページ

- 1.基本
- 2.関係代名詞の that は、直前に「カンマ(,)」や「前置詞」があったら使えない
- 3.関係代名詞の what を用いたイディオムは頻出
- 4.その他
- 5.関係詞問題へのアプローチ法のまとめ

【13】「代名詞」のポイント ……51ページ

- 1.「それ」を表す it、one、that の使い分け
- 2.one と the other(s)、another 等の使い分け
- 3.「前置詞+oneself」のイディオム
- 4.another の注意すべき用法

【14】「比較」のポイント ……54ページ

- 1.倍数表現（「Aの〇倍～である」）
- 2.比較の対象を間違えてはならない
- 3.比較級・最上級を強調する単語や語句を整理せよ
- 4.原級比較・比較級を使って最上級と同じ意味の表現ができる
- 5.thanを使わない比較表現がある
- 6.「the+比較級」となる構文は4タイプ
- 7.原級比較・比較級・最上級を用いた慣用表現

【15】「接続詞」のポイント ……57ページ

- 1.接続詞基本チェック
- 2.that節の代用

《「～するとすぐ…した」》

《時に関する接続詞の重要構文》

《「as ～ as S+V」の慣用表現》

《意外な条件を表す接続詞》

《because, since, as 以外の「理由」を表す接続詞》

【16】「態」のポイント ……65ページ

- 1.by 以外の前置詞を用いる受動態
- 2.群動詞の受動態
- 3.知覚動詞・使役動詞の受動態
- 4.進行形の受動態

【17】その他の頻出の文法事項 ……67ページ

- 1.頻出の「S+V+O+to do[原形]～」のパターン
C
- 2.頻出の「S+V+O+do[原形]～」のパターン
C
- 3.「All S can[have to] do is to do[原形]～」の to は省略されることがある
- 4.ago と before の使い分け
- 5.不定代名詞の呼応
- 6.「a number of A:多くのA」は「複数扱い」
「the number of A:Aの数」は「単数扱い」
- 7.進行形の意外な用法
- 8.指示代名詞・冠詞・不定(疑問)代名詞等を所有格と並べて用いることはできない
- 9.疑問詞を強調する語句(副詞)
- 10.不可算名詞の数え方
- 11.「過去の習慣(昔よく～したものだ)」を表す used to と would の違い
- 12.疑問詞についての頻出事項
- 13.名詞と間違えやすい副詞。

英熟語スーパーチェック ……75ページ

チェックテスト1. ……75ページ

チェックテスト2. ……76ページ

解答 ……78ページ

頻出類義語スーパーチェック ……83ページ

1.「動詞」編 ……84ページ

- (1)「借りる」「貸す」
- (2)「合う」
- (3)「書く」「描く」
- (4)「傷つける」
- (5)「疑う」

- (6) 「～かかる」
- (7) 「～になる」 「～するようになる」
- (8) 「ゆるす」
- (9) 「見る」 「聞く」
- (10) 「教える」
- (11) rob と steal
- (12) bring, take など
- (13) 「驚く」
- (14) 「着る」と「着ている」
- (15) 「感謝する」

2. 「名詞」編 ……87ページ

- (1) 「客」
- (2) 「料金」等
- (3) 「影」
- (4) 「約束」
- (5) 「サイン」
- (6) 「習慣」
- (7) 「移民」
- (8) 「天気」 「天候」
- (9) 「景色」

3. 「形容詞」 「副詞」編 ……89ページ

- (1) 「早い」 「速い」
- (2) 「高い」 「安い」
- (3) 「多い」 「少ない」
- (4) 「かしこい」
- (5) 「遅い」

その他の英熟語スーパーチェック ……90ページ

1. 動詞句 ……91ページ

2. 形容詞句 ……94ページ

3. 副詞句 ……94ページ

《頻出! first関連のイディオム》 ……97ページ

4. 群前置詞 ……98ページ

5. 前置詞によって意味や用法が変化するイディオム ……102ページ

英文法・語法スーパーチェック

【1】「文型・動詞の語法」のポイント。

1. ask の語法

- (1) ask A(人) $\left\{ \begin{array}{l} B(\text{質問等}) \quad \text{「AにBを尋ねる」} \\ \text{if[whether] S+V} \sim \quad \text{「Aに～かどうか尋ねる」} \\ \text{疑問詞節(句)} \quad \text{「Aに〇〇を尋ねる」} \end{array} \right.$

(ex) I asked him the place of his birth. 私は彼に出身地を尋ねた
I asked her whether[if] she was happy. 私は彼女に幸せかどうか尋ねた
She asked him why he had not come.
彼女は彼になぜ来なかったのかと尋ねた

⊕「ask A(人) B(質問等)」の、AとBの語順がひっくり返ると「ask B(質問等) of A(人)」となる。
また「ask whether[if] S+V～:～かどうか尋ねる」と、ask直後の「人」を表す名詞が省かれることもある。

- (2) ask A(人) for B(物) 「AにBを(くれと)求める」

(ex) He asked me for some money. 彼は私に金をくれと言った

- (3) ask for A(物): 「Aを求める」

(ex) He asked for money. 彼は金をくれと言った。

- (4) ask A(人) to do[原形]～ 「Aに～するよう求める、頼む」

=ask that A(人)+[should]+do[原形]～

(ex) I asked him to wait. 私は彼に待ってくださいと言った
=I asked that he (should) wait.

- (5) ask A(人) B(望みの物等) 「AにBを求める」

=ask B(望みの物等) of A(人)

(ex) You are asking too much of me. それは私には無理な注文というものです
May I ask you a favor? 折り入ってお願いがあるのですが
=May I ask a favor of you?

2. hope の語法。

- (1) hope to do[原形]～ 「～するのを望む」

(ex) I hope to see you soon. じきにお目にかかりたいと思います

- (2) hope for A 「Aを望む」

(ex) They hope for an early spring. 彼らは早い春の到来をっている

(3)hope that A+will+do[原形]～ 「Aが～するのを望む」

(ex) I hope that you will give us some advice.

私たちに何か助言をいただければとおもっております

(4)hope for A to do[原形]～ 「Aが～するのを望む」

(ex) I hope for Jim to come. ジムが来ることを望んでいる

㊦hopeは「望ましいことの実現を期待する」という意味。

逆に「望ましくないことを)思う・予想する」は be afraid になる。

㊦hope は以下の語法が取れない。特に hope A(人) to do[原形]～ が狙われやすい(よく似た意味の expect が「expect A(人) to do[原形]～:Aが～するのを期待する」という語法はO.K.なだけに要注意!)

× hope doing～ → ○ hope to do[原形]～

× hope A → ○ hope for A

× hope A(人) to do[原形]～ → ○ hope that A will do[原形]～
=hope for A to do[原形]～

3.help の語法。

(1)「助ける」という help。

①help A(人) 「Aを助ける」

②help (to) do[原形]～ 「～するのを手伝う」「～するのに役立つ」

③help A(人) (to) do[原形]～ 「Aが～するのを助ける」「Aが～するのに一役買う」

(ex) I helped (to) paint the house. ボクは家のペンキ塗りを手伝った

㊦help の後ろの「to」は省略されることが多い。したがって「help+do[原形]～」、「help+O+do[原形]～」という形には慣れておきたい。

④help A(人) with B(仕事など) 「AのBを助ける」

(ex) He helped me with my homework. 彼は私の宿題を手伝ってくれた

⑤help oneself to A(飲食物) 「自由にAをとって食べる(飲む)」

(ex) Help yourself to another piece of cake.

ケーキをもう一切れお取りください

㊦ちなみに helping で「お代わり」という意味もある。

(ex) How about another helping of salad? サラダのお代わりはいかがですか

(2)「避ける」という help。㊦「人」を目的語にとらない。

①cannot help doing～ 「～せずにはいられない」

=cannot but do[原形]～

(ex) I could not help stating my plan. 自分の計画を述べずにはいられなかった

=I could not help but state my plan.

②I cannot help it. 「仕方がない」

=It can't be helped.

4. remind の語法。

remind A(人) $\left\{ \begin{array}{l} \text{of B(物)} \quad \text{「AにBを思い出させる」} \quad \text{☞ of以下、that節以下は「過去」の内容。} \\ \text{that S + V} \sim \text{「Aに}\sim\text{を思い出させる」} \\ \text{to do[原形]} \sim \text{「Aに}\sim\text{するよう注意する」} \quad \text{☞ to do}\sim\text{は「未来」の内容。}$

☞上のようにremindは「人」を目的語にとる。「That reminds me. そうそうそれで思い出した」といった言い方もある。
ちなみにremember[recollect, recall]は「思い出す」という意味。

5. suggest の語法。

(1)suggestは第3文型[SVO]をとる

× I suggested him to go there.

○ I suggested that he should pay for it.

(2)人を目的語にとれない

× suggest O₁(人) O₂(物) ☞ suggest to A(人) B(物) なら可。

× suggest O(人) to do[原形] ~ / that S+V ~

(3)動名詞 (×不定詞) を目的語にとる

○ suggest doing ~

× suggest to do[原形] ~

(4)that節を目的語にとると、that節内は「[should]+do[原形] ~」になる

(ex) He suggested that I [should] go there. 彼は私がそこに行くことを提案した
[原形]

☞shouldを省略することもできるがその場合、動詞は「原形」の形にしておかなければならない。

(5)ただし(4)のような形になるのは「提案する」という意味の時だけ。「ほのめかす、それとなく言う」という意味の場合は、that節が(4)のような形になることはない。

(ex) Are you suggesting that I am too young? 僕が若すぎると言うのですか

6. 意外な do の語法。

(1) [willやshouldを伴って] 「間に合う」「役に立つ」「十分だ」 = be fine

☞この do は自動詞。後ろに目的語をとらない。

(ex) That will do. それで結構です(十分です)

Any time before seven will do. 7時前ならいつでも結構です

(2)[do A(人) B(益・害など)] 「AにBを与える」 = do B to A

do A(人) good 「Aのためになる(益になる)」 = do good to A(人)

do A(人) harm[damage] 「Aに害を与える(及ぼす)」 = do harm[damage] to A(人)

(ex) This medicine will do you good soon.

この薬はあなたにすぐに益を与えるでしょう
→ この薬を飲めばすぐにあなたはよくなるでしょう

7.lie と lay の語法。

(1)[自動詞] lie - lay - lain - lying ①「横たわる」

②[lie C(形・分)]「Cのままている」

(2)[他動詞] lay - laid - laid - laying ①「～を横たえる」

②「(卵を)産む」

(3)[自動詞] lie - lied - lied - lying [lie to A(人)]「Aにウソをつく」

☞layだけが「他動詞」なので、**lay**の後には必ず目的語になる「名詞」がくる。そこが見極めのポイント。「ウソをつく」という lie は「lie to A(人):Aにウソをつく」という形で用いることが多い。

8.いろいろな「言う」の語法。

(1)speak【自動詞】

speak to[with] A(人) 「Aと話す」

speak of[about] A(人・物) 「Aについて話す」

☞speakは基本的に自動詞なので前置詞が後に続く。後ろに直接、名詞(目的語)を取らない。例外は「speak English」等のみ。

(2)talk【自動詞】

talk to[with] A(人) 「Aと話す」

talk of[about] A(人・物) 「Aについて話す」

☞talkも基本的に自動詞で前置詞が後に続き、目的語を取らない。

他動詞として使われる場合、以下のイデオムが頻出。

talk A(人) into doing～ 「Aを説得して～させる」

talk A(人) out of doing～ 「Aを説得して～するのをやめさせる」

(3)say【他動詞】

○say+[to A(人)]+O(言葉・話す内容)

×say A(人) that S+V～

☞sayは他動詞なので目的語を必要とするが、「人」を目的語に取れない(「言葉・話す内容」が目的語になる)。

(4)tell【他動詞】

☞4つの言う(speak, talk, say, tell)の中で「人」を目的語にとれるのはtellだけ!

(talkが「人」を後ろにとることは例外的にあるが、その直後にinto[out of]が必ずくるので見極めはつきやすい)。

tell A(人) B(物事) 「AにBを話す」

tell A(人) that S+V～ 「Aに～を話す」

tell A(人) to do[原形]～ 「Aに～するように言う」

tell A(人) of[about] B(物事) 「AにBについて話す」

☞ tellはsayとは逆に、「人」を目的語に必要とする。したがって以下のような形はない。例外は「tell the truth:真実を言う」等。

× tell that S+V~

× tell to A(人) that S+V~

なお、tellには「区別する/分かる」という意味もある。その場合は必ずしも「人」を目的語にとる必要はない(つまり「物事」がOのこともあり得る)。

can tell A(人・物事) 「Aがわかる」

tell A from B 「AとBを区別する」 ☞ これは「区別する」というtellを用いた超頻出イディオム。

tell A apart 「Aを見分ける、区別する」 distinguish A from Bで言い換えられる。

9. sit と seat の語法。

(1) sit 「座る」 [自動詞]

(2) seat 「~を座らせる」 [他動詞]

☞ したがって、seatを使って「座る」とするためには、seat oneself[又はbe seated]としなくてはならない。

(ex) He sat down on the sofa. 彼はソファに座った

=He seated himself on the sofa.

=He was seated on the sofa.

10. wait の語法。

wait { for A 「Aを待つ」
for A to do[原形]~ 「Aが~するのを待つ」
on A(人) 「Aに仕える、食事を出す」
cf; keep A(人) waiting 「Aを待たせたままにしておく」

11. owe の語法。

(1)[owe A(人) B(金など)] 「AにBを借りている」 = owe B(金など) to A(人)

(ex) How much do I owe you? あなたにいくら借りがありますか

I owe you \$5. 5ドル借用しました

=I owe \$5 to you.

[owe A(人) B(義務など)] 「AにBの義務を負っている」 = owe B(義務など) to A(人)

(ex) I owe you an apology. 君におわびをしなければならない

=I owe an apology to you.

(2)[owe A(物事) to B(人)] 「AはBのおかげだ」

(ex) I owe my success to you. 私の成功はあなたのお陰です

=I owe it to you that I succeeded.

仮・目

真・目

12. blame の語法。

(1)[blame A(人) for B(理由)] 「Bの理由でAを非難する、責める」

=accuse A(人) of B(理由) ☞accuseがとる前置詞はof!

(ex) He blamed me for having left there. そこを離れたことで彼は私を責めた
=He accused me of having left there.

(2)[blame A(理由) on B(人)] 「AをBのせいにする」

(ex) Don't blame the failure on me. 失敗を私のせいにししないでください

(3)[A be to blame (for B)] 「Aは(Bに対して)責任がある」

=A is responsible for B

(ex) He is to blame for the accident. その事故の責任は彼にある
Who is to blame? だれが悪いのか

13. provide の語法。

provide A(人) with B(物) 「AにBを与える、供給する」

=provide B(物) for A(人) ☞「人」と「物」の順番が逆になると、前置詞がforに変わる点に注意!

(ex) He provided the boys with necessary books.

=He provided necessary books for the boys.

彼は少年たちに必要な本をあてがった

14. complain の語法。

complain [to A(人)] of/about B(物事) 「[Aに]Bについての不満を述べる」

(ex) She complained to me of/about her headache.

彼女は頭痛がすると私にこぼした

15. apologize の語法。 ☞自動詞。

apologize [to A(人)] for B(過失等) 「[Aに]Bのことを詫げる、謝る」

(ex) He apologized to me for being late. 彼は私に遅刻をわびた

16. 「S+V+O+to do[原形]～」の型をとる他動詞。

C

enable	「～できるようにする」	cause	「(結果的に)～させる」	want	「～してほしい」	get	「～させる」
would like	「～してほしい」	lead	「～する気にさせる」	prefer	「～してほしい」	ask	「～するよう頼む」
permit	「～するのを許可する」	tempt	「～する気にさせる」	leave	「～させておく」	set	「～させる」
persuade	「～するよう説得する」	request	「～するよう要求する」	tell	「～するよう命じる」		
force	「(無理やり)～させる」	require	「～するよう要求する」	order	「～するよう命じる」		
warn	「～するよう警告する」	induce	「～するよう勧める」	allow	「～するのを許可する」		
compel	「(無理やり)～させる」	urge	「～するよう勧める」	expect	「～するのを期待【予想】する」		
oblige	「(無理やり)～させる」						☞太字の動詞は特に頻出。

17. 「S+V+O+to do[原形]～」の型をとりそうでとれない他動詞。

C

hope 「希望する」 suggest 「提案する」 admit 「認める」 [admit O to be Cの形は有り得る]
demand 「要求する」 propose 「提案する」 insist 「主張する」

會特に太字の単語は頻出。これらの動詞は [SVO] の形をとる。

(ex) × I hope you to succeed in the exam.

○ I hope that you will succeed in the exam.

私はあなたが試験に合格することを望んでいます

18. 「自動詞と間違えやすい他動詞」と「他動詞と間違えやすい自動詞」。

(1) 「自動詞と間違えやすい他動詞」というのは、本来他動詞なので直接後ろに目的語になる名詞をとるべきなのに、日本語感覚から誤って後に前置詞をつけてしまいやすい動詞のこと。

- ① discuss A 「Aについて討論する」 =talk about A
- ② accompany A 「Aについてゆく」 =go with A, follow A
- ③ marry A 「Aと結婚する」 =get married to A
- ④ attend A 「Aに出席する、通う」 =go to A
- ⑤ stand A 「Aに耐える」 =put up with A, endure A
tolerate A
- ⑥ approach A 「Aに近づく」 =come to A
- ⑦ resemble A 「Aに似ている」 =take after A
- ⑧ enter A 「Aに入る」 =come into A
- ⑨ A(物) Strike B(人) 「AがBの頭に思い浮かぶ」 =A(物) occur to B(人)
- ⑩ obey A 「Aに従う」 =yield to A
- ⑪ join A 「Aに参加する」 =take part in A, participate in A
- ⑫ await A 「Aを待つ」 =wait for A
- ⑬ contact A 「Aと接触する」 =get in touch with A
- ⑭ oppose A 「Aに反対する」 =object to A, be opposed to A
- ⑮ reach A 「Aに着く」 =arrive at A, get to A
- ⑯ excel A 「Aに勝る、上回る」 =be superior to A
surpass[exceed] A
- ⑰ mention A 「Aについて話す」 =refer to A
- ⑱ inhabit A 「Aに住む」 =live in A

會18個の動詞の頭文字をつなげて「だまされそうじゃこれ見い」と覚えよう。
(damasaresojacoremi)

(2) 「他動詞と間違えやすい自動詞」とは、逆に前置詞を後につけるのを忘れてしまいやすい動詞のこと。

①graduate (from A)	「(Aを) 卒業する」
②account (for A)	「(Aについて) 説明する」
③quarrel (with A)	「(Aと) 口論する」
④respond (to A)	「(Aに) 反応する」
⑤reply (to A)	「(Aに) 返事を書く」
⑥insist (on A)	「(Aを) 主張する」
⑦persist (in A)	「(Aに) 固執する」
⑧hope (for A)	「(Aを) 希望する」
⑨dispense (with A)	「(A) なしで済ませる」
⑩dispose (of A)	「(Aを) 処理／処分する」
⑪agree (with/to A)	「(Aを) 同意する」
⑫major (in A)	「(Aを) 専攻する、専門に扱う」
⑬appeal (to A)	「(Aに) 訴える」
⑭start (from A)	「(Aを) 出発する」
⑮specialize (in A)	「(Aを) 専攻する、専門に扱う」
⑯interfere (with A)	「(Aを) 邪魔する」
⑰compete (with[against] A)	「(Aと) 競争する」
⑱complain (of[about] A)	「(Aの) 不満を言う」
⑲consent (to A)	「(Aに) 同意する」
⑳object (to A)	「(Aに) 反対する」
wait (for A)	「(Aを) 待つ」

19. 注意すべき「SVO₁O₂」をとる他動詞。

「SVO₁O₂」をとる動詞は基本的に「O₁にO₂を与える」という意味になる。ただ例外的に「与える」という意味にならない(あるいは、-見そう見えない)動詞もある。以下がその例。

(1) cost A(人) B(犠牲・効) 「AにBの犠牲[労力]を強いる」

(ex) Carelessness cost him his life. 不注意のために、彼は命を失った

(2) deny A(人) B(要求されたもの) 「AにBを与えない」

(ex) Mary denies her children nothing. メアリーは子供たちに何でも与える

(3) envy A(人) B(物事) 「AのBをうらやむ[ねたむ]」

(ex) I envy you your success. あなたの成功がうらやましい

(4) save A(人) B(時間・金・効) 「AのBを節約する[省く]」

(ex) This new machine will save us a lot of time.

この新しい機械のおかげでかなり時間が節約できるだろう

(5) spare A(人) B(時間など) 「AのためにBをさく[とっておく]」

(ex) Could you spare me a few minutes? 少し時間をとってくれませんか

(6) spare A(人) B(苦勞等) 「AにBをかけないように気を配る、AのBを免除する[省く]」

(ex) I will spare you trouble. あなたにご迷惑はかけません

⊕ spareには5の「spare A(人) B(時間):AにBを割いてやる」という語法もあり、要注意。

20. 「使役動詞」の語法。

(1) make+O+do[原形]～ 「Oに(強制的に)～させる」 =force O to do[原形]～

《make (使役) の受動態の公式》

make + O + do[原形]～ C	☞ 受身になると… (S)	O + be made + to do[原形]～ C
-------------------------	------------------	-------------------------------

⊕ このように、能動態の時には「原形」だったCが、受動態になると「to do[原形]～」に変化する点に注意せよ！

(ex) My mother made me clean the room. 母は私に部屋を掃除させた

→ I was made to clean the room by my mother. 私は母に部屋を掃除させられた

(2) let+O+do[原形]～ 「Oに(許可して)～させる」

=allow+O+to do[原形]～

(ex) My parents finally let me study abroad. ついに両親は私が留学するのを許してくれた

=My parents finally allowed me to study abroad.

(3) 使役の「have」と「get」

① have+O+ $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{do[原形]}}{C} \text{ 「Oに～させる (してもらう)」} \\ \frac{\text{p.p.}}{C} \text{ 「Oを～される (してもらう)」} \end{array} \right.$ (注)p.p.=過去分詞のこと。
⊕ 「have+O+doing～:Oが～するままだせておく」という語法もある。

② get+O+ $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{to do[原形]}}{C} \text{ 「Oに～させる (してもらう)」} \\ \frac{\text{p.p.}}{C} \text{ 「Oを～される (してもらう)」} \end{array} \right.$

⊕ Cに何を入れるかは、OとCの意味関係で決まる。つまりOとCが能動(すなわち「OはCする」という)の意味関係なら、Cにはhaveであれば「原形(または～ing)」、getであれば「to do[原形]～」が入る。逆に、OとCの意味関係が受身(「OはCされる」)の場合には、haveもgetも過去分詞をCに取る。

《Cの見極め方》

O : C = 能 動 ☞ C = ①動詞がhaveなら「原形(又は～ing)」
「OはCする」 ②動詞がgetなら「to do[原形]～」。

O : C = 受 身 ☞ C = 過去分詞
「OはCされる」

☞ 実際have, getに限らず、全てのSVOCは、OとCの意味関係が「受身」の場合、Cには「過去分詞」しか入らない。

☞ ルールが飲み込めたら「センター英語9割GETの攻略法」のステップ・アップ問題の23.と24.を解いてみよう。

21. 「知覚動詞」が作る「SVOC」。

知覚動詞+O+C C=(1)動詞の原形 「OがCするのを～する」
(2)現在分詞 「OがCしているのを～する」
(3)過去分詞 「OがCされるのを～する」

☞ Cに「to do[原形]～」がくることはない。

(ex) I saw her go[×to go] there. 私は彼女がそこに行くのを見た

☞ このような知覚動詞には以下のようなものがある。

see「見る」 feel「感じる」 watch「見る」 perceive「気付く」 hear「聞く」
smell「臭う」 notice「気付く」 catch「目撃する」 imagine「想像する」

☞ このうちsmell, catch, imagineは「C=現在分詞」。

smell O doing～ 「Oが～している臭いがする」
catch O doing～ 「Oが～しているのを目撃する」
imagine O doing～ 「Oが～しているのを想像する」

22. 「知覚動詞+O+ $\frac{\text{do[原形]}}{\text{C}}\sim$ 」の受動態のパターン。

《知覚動詞の受動態の公式》

知覚動詞+O+ $\frac{\text{do[原形]}}{\text{C}}\sim$ ☞ O+be 知覚動詞のp.p.+ $\frac{\text{to do[原形]}}{\text{C}}\sim$
受身になると... (S)

☞ このパターンは使役動詞のmakeの受動態とまったく同じである！

したがってmake同様、能動態の時には「原形」だったCが、受動態になると「to do[原形]～」に変化する点に注意せよ！

(ex) I saw the man enter the store.

私はその男がその店に入るのを見た

→The man was seen to enter the store.

その男はその店に入るのを(私に)見られた

23. 「人」を目的語にとれない(伝達)動詞。

explain 「説明する」 mention 「述べる」 say 「言う」 describe 「述べる」

suggest 「提案する」 confess 「告白する」 propose 「提案する」 remark 「述べる」

⚠特に太字の単語は頻出。それから、もしこれらの動詞の後ろに「人」をおきたい場合は、前置詞の to を用いて「to A(人)」という形にする。

(ex) He explained to me how he did it. 彼はどうやってそれをしたのかを私に説明してくれた

=He explained how he did it to me.

24. 意外な意味になる動詞。

last 「(時間的に) 続く、持続する」 「(物が)持ちこたえる、もつ」 ⚠自動詞。

(ex) Our meeting lasted until four. 会合は4時まで続いた

long 「(…を) 熱望する、(…に) あこがれる」 ⚠自動詞・他動詞両方ある。

(ex) We long for peace. 私達は平和を熱望している

face 「(敵・困難などに)直面する、立ち向かう」 ⚠他動詞。ただし「～を向いている」という意味では自動詞

(ex) We faced difficulties. 我々は困難に敢然と立ち向かった 用法もあり。

pay 「割に合う」 ⚠この用法の場合は自動詞。

(ex) Honesty sometimes doesn't pay. 正直は時として割に合わない

work ① 「[機械・器官などが]動く、作動する、機能する」 ⚠自動詞。

(ex) This clock works by electricity. この時計は電気で動く

② 「[計画・方法などが]うまくいく」

(ex) Your plan will work well. 君の計画はうまくいくでしょう

③ 「[薬・力などが]効く、効果がある

(ex) This medicine works like magic. この薬は不思議なほどよく効く

share 「～を一緒に使う」 ⚠他動詞。

(ex) I shared her taxi as far as my office.

会社まで彼女の乗ったタクシーに便乗させてもらった

matter 「重要だ」 ⚠自動詞。

(ex) It doesn't matter whether he will come or not.

彼が来るかどうかは重要ではない

meet A(必要・要求) 「Aを満たす、Aに応える」 ⚠他動詞。

(ex) I met his demands. 私は彼の要求に応じた

run A(店・会社など) ① 「Aを経営する」 ⚠他動詞。

(ex) He runs a hotel. 彼はホテルを経営している

② 「(性格などが) […に] 伝わる、遺伝する」 ☞自動詞。

(ex) The character runs in her family. 彼女のその性格は親譲りだ

③ [run C(形)] 「(物事が) Cになる」 ☞自動詞。

(ex) The river has run dry. 川の水は干上がった

☞Cにはbad型の(つまり「悪い」意味の)形容詞が入る。

sell 「(ある価格で)売られている、売れ行きが良い(悪い)」 ☞自動詞。

(ex) His new book is selling well[badly] . 彼の新刊は売れ行きがいい[悪い]

survive 「〇より長生きする」 ☞他動詞。

(ex) She survived her husband by ten years. 彼女は夫よりも10年長生きした

☞もちろんsurviveには「生き残る、存続する」(これは自動詞)。「～を生き延びる」(これは他動詞)のような意味もある。

(ex) The custom has survived into the twentieth century.

その習慣は20世紀まで続いている

【2】「時制」のポイント。

1. 進行形にできない動詞がある。☞「状態動詞」という。逆に進行形にできる動詞を「動作動詞」という。

(1) 「所有」「存在」を表す動詞(「～ている、ある」と訳せるものが多い)

belong to「～に所属している」 contain「含んでいる」 deserve「価値がある」 be「ある、いる」

consist of「～からなっている」 exist「存在している」 wear「身につけている」 lie「ある」

own「所有している」 possess「所有している」 resemble「似ている」等

(2) 思考・心理を表す動詞

understand「理解する」 know「知っている」 think「思う」 like「好む」 hate「嫌う」

believe「信じる」 remember「思い出す」 love「愛する」 dislike「嫌う」等

(3) (意思によって左右されない) 知覚動詞 ☞「(自らの意思とは関係なく)見える、聞こえる、臭う等」というもの。

hear「耳にする」 see「目に入る」 taste「味がする」 smell「臭いがする」 taste「味がする」等

☞要する状態動詞(進行形にできない動詞)とは「自らの意思で(短時間のうちに)開始・中断・再開ができない動詞」であり、「始まりと終わりがはっきりしない動詞」。

その逆が動作動詞。同じ知覚動詞でも、「自分の意思で見る(look, watch)」「自分の意思で聞く(listen)」等は(「動作動詞」であり)進行形にできる。

2. 過去進行形。

過去進行形は、「過去の一時点における進行中の動作(～している最中だった)」を表す。したがって、動作動詞と明確な過去の一時点を示す語句がセットで用いられたとき、その動作動詞は過去進行形になると見たらいい。

(ex) I was listening to the radio when my mother came into my room.

【動作動詞】

【明確な過去の一時点】

母が部屋に入ってきた時私はラジオを聴いている最中だった

3.時・条件の副詞節中の時制に関して。

「時」や「条件」を表す接続詞の後の「S+V」の「V」は、

(1)本来なら未来時制(will do～)で表すべき内容でも「現在形」で代用する。

(2)本来なら未来完了(will have+p.p.～)で表すべき内容でも「現在完了形」で代用する。



接続詞

S+V ☞先頭の接続詞が「時」「条件」なら、

(1)本来なら未来時制(will do～)で表すべき内容 ⇨ 現在形で代用する

(2)本来なら未来完了(will have+p.p.～)で表すべき内容 ⇨ 現在完了形で代用する

[時]・[条件]

《「時」「条件」の接続詞》

①「時」の接続詞

when 「～した時」	until 「～するまで」	the moment 「～するとすぐに」
once 「いったん～すると」	before 「～する前に」	as soon as 「～するとすぐに」
after 「～した後で」	by the time 「～する時までには」	

②「条件」の接続詞

if 「もし～なら」	in case 「～の場合には」	unless 「～しない限り」
as long as 「～しさえすれば」	provided (that) 「もし～なら」	=providing

☞ただし、上記の接続詞のうちで注意を要するのが when と if である。

when には訳し方が3つある。

- when 1. [名詞節] 「いつ」
- 2. [形容詞節] 訳さない(関係副詞のwhen)
- 3. [副詞節] 「～(の)時」「～(し)たら」

このうち未来の内容でも現在時制で代用するのは3の「～(の)時」「～(し)たら」と訳せる when の場合のみ。それ以外の when の場合は、未来の内容は当然、未来時制で表す(受験では1と3の見極めを問うものが大半)。

(ex) ①When he arrives[×will arrive], I want to say hello to him.

彼が着いたら、彼に挨拶したいです

②I don't know when he will arrive[×arrives] tomorrow.

いつ彼が着くのか分かりません

if には訳し方が2つある。つまり know, ask等の目的語になって「～かどうか」と訳す if と、それ以外の「もし～なら」と訳す if の2つだ。

if 1.[名詞節]	know 「分かる」	} if S+V~ ○	☞これらの動詞の目的語となるifは「～かどうか」と訳す。
	ask 「尋ねる」		
	doubt 「疑う」		
	see 「調べる」		
	wonder 「思う」		
	V		

2.[副詞節] : 「もし～なら」

このうち、未来の内容でも現在時制で代用するのは「もし～なら」と訳す if の場合のみ。「～かどうか」と訳す if の後ろでは、未来の内容は当然、未来時制で表す。

(ex) ① If it rains [× will rain], I'll be home.

もし雨が降れば、家にいます

② I doubt if he will come [× comes] to our home tomorrow.

明日彼が我が家にくるかどうかは疑わしい

4.現在完了(have+p.p.)の持つ意味。

現在完了とは、その文の主語の過去に行った「動作」や過去の「状態」が、現在の状況と(何らかの形で)つながりがあることを表す。

(ex) They've been married for five years. 彼らが結婚してから5年になる

この英文は、「彼ら」が「5年前に結婚」して、その状態が現在まで継続していることを示している。have は動詞の場合、「持つ」という意味がある。「結婚している」という状態を「(現在まで)5年間持っている」、と考えれば分かりやすい。

(ex) They married five years ago.

と過去時制にしてしまうと、現在とのつながりが切れてしまう。つまり「5年前に結婚」したが、今も結婚生活が続いているのかどうかは、この文ではわからないのだ。例文の for five years のように、「現在までの継続(つまり現在完了)」を表す語句には以下のようなものがある。

since last Sunday「先週の日曜以来」 these (last) three days「この3日間」 ever since「それ以来ずっと」
lately[recently]「ここ最近」 for some time「ここしばらくの間」

また現在完了形の例文として以下のようなものもあげておこう。

(ex) (1) I have lost my watch.

私は時計をなくしてしまった

(2) My father has gone to Kumamoto on business.

父は仕事で熊本へ行きました

(1)は、「時計をなくした」という過去の状態を現在も持っている(つまり今もって見つかっていない)という意味が込められている。

(2)は、「父は熊本に行ってしまった」という結果が現在でも続いている、つまり今はここにはいない、という意味が込められている。

5.現在完了 (have+p.p.) と共に使ってはいけない語句。

以下の3種類の語句は「過去時制」と共に用いる。

(1)明確に過去の内容を表わす語句

three years ago「3年前」 when I was a child「子供の頃」 in 1964「1964年に」等
yesterday 「昨日」 last Sunday 「先週の日曜」

× It has rained yesterday.

○ It rained yesterday.

(2)疑問詞のwhen, what time 「いつ」

× When have you finished it?

○ When did you finish it?

(3) just now 「ついさっき」 =just a few minutes ago

× John has come home just now.

○ John came home just now.

just(ちょうど)だけ、あるいはnow(今)だけなら現在完了と共に使える。

また、before(以前に), once(かつて), in the past(過去に)等は、現在完了と共に使える。

6.過去完了 (had+p.p. ~) の頻出2パターン。

(1)「明確な過去の一点」を示す語句と「時の幅」を示す語句が文中にあった場合。

(ex) Mark had been waiting for an hour when Mary arrived.
 [時の幅を示す語句] [過去の一点を示す語句]

メアリーが到着した時点でマークは1時間待っていた

(2)過去のある一時点よりも、更に昔の内容を表す場合。[大過去]

(ex) When I arrived at the station, the train had already started.

私が駅に着いた時には、すでに列車は出発してしまっていた

「私が駅に着いた」ことが過去の内容。「列車が出発した」のは、更にそれよりも前(昔)の内容。ゆえに過去完了形を用いる。

7.「彼の叔母さんが死んで3年になります」の書き換え。

His aunt died three years ago.

=His aunt has been dead [×has died] for three years.

dieのような「瞬間的動作(行為)」を表す動詞は、現在完了形で使うことはできない(marry「結婚する」もhave marriedとは言わない)。しかしbe deadは「死んでいる」という「状態」を表すので、「3年間死んでいる状態だ」と考えれば「完了形」と使える。

=It is [has been] three years since his aunt died.

=Three years have passed since his aunt died.

【3】「形容詞」のポイント。

1. 意味を混同しやすい形容詞。

respective 「それぞれの」	imaginary 「想像上の」	considerable 「かなりの、相当な」
respectful 「丁寧な」	imaginative 「想像力豊かな」	considerate 「思いやりがある」
respectable 「立派な、尊敬できる」	imaginable 「想像可能な」	considered 「熟慮された(上での)」
pleased 「[主語は人間]喜んだ、うれしい、満足した」	literary 「文学的な」	
pleasing 「(人を)喜ばせるような」	literate 「読み書きできる」 ⇔ illiterate	
=pleasant	literal 「文字の、平凡な」	
artistic 「芸術的な」	comparable 「比較できる」	
artificial 「人工的な」	comparative 「比較的な、比較に基づいた」	
sensitive (1) 「繊細な、感受性が豊かな」	valuable 「価値がある」	
(2) 「神経過敏の」	valueless 「価値がない」	
sensible 「分別のある」	invaluable 「(評価できないくらい)貴重な」	
sensational 「人騒がせな」	priceless 「(値段がつけられないほど)貴重な、価値がある」	
sensual 「官能的な、好色な」		
sensuous 「感性の豊かな、感覚的な」	successive 「継続的な、連続の」	social 「社会的な、社交界の」
sensory 「知覚に関する」	successful 「成功した」	sociable 「社交的な」
regretful 「(人が～を)残念に思っている」	historic 「歴史的に有名な」	industrial 「産業の」
regrettable 「(物事が)残念な」	historical 「歴史上の」	industrious 「勤勉な」
economic 「経済(上)の」	healthy 「健康な」	desirable 「望ましい」
economical 「(物が)経済的な」	healthful 「健康に役に立つ」	desirous 「(人が)望んでいる」
alone 「一人の、単独の(寂しいという意味はない)」	credible 「信用し得る」	
lone(ly) 「孤独な、寂しい」	credulous 「(人が)信じ込みやすい、すぐ信用してしまう」	
shameful 「(物事が)恥ずべき」	favorite 「お気に入りの」	
ashamed 「(人が)恥ずかしい、恥じ入っている」	favorable 「(～)に有利な、(～)に好意的な」	

2. 前から名詞を修飾できない形容詞

afraid 「心配している」 alive 「生きている」 unable 「できない」 alike 「似ている」 ashamed 「恥じて」
aware 「気づいている」 asleep 「眠っている」 alone 「孤独な、一人の」 worth 「価値のある」

上記の形容詞は、C(補語)になるのみで、前から名詞を修飾できない。

見て分かるようにこれらの形容詞は「a」ではじまるものが多いことに注意。

(ex) ○ He is alive. 彼は生きている cf; lively: 「生き生きとした」「にぎやかな」

× An alive [○A living/ live] lion 生きているライオン

㊦ living は直接名詞を修飾することも、Cになることもできる「生きている」。liveは(aliveとは反対に)前から名詞にかかるのみ。Cにはなれない。

3. 「人」を主語にとれない形容詞 ☞そのため、It is...to do[原形]～の仮主語構文を使う場合が多い。

convenient「都合のいい」 inconvenient「都合の悪い」 possible「可能な」 impossible「不可能な」
necessary「必要な」 unnecessary「不必要な」 probable「たぶん」 dangerous「危険な」
natural「当然な」

(ex) × You are dangerous to go there alone.

○ It is dangerous for you to go there. 君がそこに一人で行くのは危険だ

× Will you be convenient to stay here?

○ Will it be convenient for you to stay here?

君はここにるのが都合がいいですか

⊕ dangerous が「～に対して危害を加えそうな」という意味で使われている場合にはもちろん「人」を主語にできる。

(ex) He is dangerous to honest people. 彼は正直な人には危険な人物だ

4. 「人(能力を持つ存在)」を必ず主語にとる形容詞。 ⊕主語の「意思」「能力」「感情」
able「できる」 unable「できない」 anxious「したい」 を表す形容詞。
angry「腹が立つ」 happy「幸せな」 glad「うれしい」

(ex) × It is happy to be here.

○ I'm happy to be here. ここにこれてうれしいです

5. 「～ごとに(1回)」という意味の every。

every +基数+複数名詞	⊕このような形で使われるeveryは「〇〇ごとに(おきに)」。
=every+序数+単数名詞	基数とは、one,two,three,.....。
	序数とは、second,third,fourth,fifth.....。

(ex) every six hours 6時間ごとに[5時間おきに]

=every sixth hour

every four years 4年ごとに[3年おきに]

=every fourth year

every other day 2日ごとに[1日おきに] ⊕ このようにotherを用いて「2日(時間、分等)ごとに」

=every second day の「2」を表す。

every few weeks 2、3週間ごとに ⊕ このようにfewを用いて「2、3週間(時間、分等)ごとに」

の「2、3」を表す。

⊕単純に日本語の問題なのだが、「4年ごとに」と「3年おきに」は同じことである。したがって「2日ごとに」は「1日おきに」と同じ意味。

6. 「the+形容詞[分詞]」は「(人を表す)複数名詞化する」ことがある。

(ex) the young 「若者たち」 = young people

【4】「仮定法」のポイント。

1. 仮定法の基本公式とその整理。

(1) 仮定法過去

If+S₁+ (助)動詞の過去形~, S₂+助動詞の過去形+V【原形】….
「もし(今)~なら」 「…だろうに」

(ex) If I were you, I would not do such a thing.

もし(今)僕が君なら、そんなことはしないだろうに

⚠(主節、つまりifのついていないS+Vにくる)「助動詞の過去形」には、would, could, might, should 等があるが、shouldはまれ。

be動詞は、例文のように主語の人称に関係なく「were」が用いられることが多いが、たとえば I[he/shel] was として間違いではない。

⚠If節にくる助動詞の過去形には、「可能性」を表すcould、「意志」を表すwould、「推量」を表すmightなどがありうるが、wouldが入ることはまずないとみていい。その場合、If節内は could[might~]+V【原形】~ となる。

(2) 仮定法過去完了

If+S₁+ had+p.p.~, { (1)S₂+助動詞の過去形+have+p.p.….
「(あの時)…だったろうに」
「もし(あの時)~だったら」 (2)S₂+助動詞の過去形+V【原形】….
「(今)…だろうに」

(ex) If I had known your trouble, I could have helped you then.

もし君が困っているのを知っていたなら、その時君を助けてあげられただろうに

If I had not studied hard, I might not attend this school now.

もし一生懸命勉強していなかったなら、今この学校に通っていないかもしれない

(3) 仮定法未来

① 「もし万一~なら、…だろう」

If+S₁+should+V【原形】~, { (1)S₂+助動詞の過去形+V【原形】….
(2) ①命令文
②S₂+will[can/ may]+V【原形】….

(ex) If it should rain tomorrow, I will stay at home.

もし万一明日雨が降れば、僕は家にいます

If he should come to see me, let me know as soon as possible.

もし万一彼が私に会いに来たら、すぐに知らせてください

②「もし仮に～なら、…だろう」

If+S₁+ were to+V【原形】～ , S₂+助動詞の過去形+V【原形】….

(ex) If you were to die today, what would you do?

もし仮に今日死ぬとしたら、君はどうしますか

(4)文法問題用の公式の整理

- ①仮定法においては、if 節には必ず「(助)動詞の過去形」もしくは「過去完了形」を用いる(つまり「現在時制」「未来時制」「現在完了」が使われることはない)。具体的には、
 - 1.現在の事実と反する仮定をする場合、仮定法では(if 節は)「過去形」を用いる。
 ☞主節は「助動詞の過去形+V【原形】～」になる。主節とは、if、つまり接続詞のついていない方の「S+V～」のこと。
 - 2.過去の事実と反する仮定をする場合、仮定法では(if 節は)「過去完了形(had+p.p.)」を用いる。
 ☞主節は「助動詞の過去形+have+p.p.～」になる。
- ②仮定法で、if 節に「(助)動詞の過去形」があったら、主節は必ず「助動詞の過去形+V【原形】～」になる。
 ☞例外となりうるのは If+should 型のみ。前ページの公式を参照せよ。
- ③仮定法で、if 節に「had+p.p.～」があったら、主節は2通りの可能性がある。
 つまり
 - 1.主節の方も過去の仮定をする → 「助動詞の過去形+have+p.p.～」を使う。
 - 2.主節の方は現在の仮定をする → 「助動詞の過去形+V【原形】～」を使う。いずれにしても、主節には「助動詞の過去形」がくる
- ④主節に「助動詞の過去形+have+p.p.～」があったら、if 節は必ず「had+p.p.～」になる。
- ⑤主節にwill (can, may)が使われたり、命令文が来たりする仮定法は「If+S+should～」だけ。

2.仮定法の if が省略されると、条件節は「疑問文と同じ語順」になる。

(ex) If I were a bird, → Were I a bird,

If I had had money, → Had I had money,

If it should rain, → Should it rain,

If I were to die now, → Were I to die now,

3. 仮定法を用いた慣用表現。

- (1) but for A ① 「もしAがなければ」
 =without A =If it were not for A
 =Were it not for A
- ② 「もしAがなかったならば」
 =If it had not been for A
 =Had it not been for A

(ex) But for your help, I could not manage to do this.

=Without your help,

もしあなたの助けがなければ、これをやり遂げることはできないだろう

- (2) I wish { ① S + V [(助)動詞の過去形] 「もし(今)~ならなあ」
 [If only] { ② S + V [had p.p.] 「もし(あの時)~だったらなあ」
 S + V [助動詞の過去+have+p.p.] 「もし(あの時)~できていたらなあ」
 ㊦ 「助動詞の過去+have+p.p.」の部分はcould have+p.p.が多い。

《wish の後の would や could に関して》

「I wish S + V~」のVの部分に助動詞の would や could (又はmight等)が使われることもあるが、意味上話者が必要と思われるときに付くだけで、必ず必要というものではない。would[could,might] have+p.p.~は、過去の内容を表すことになる。could が入れれば「~できる」、could have+p.p. で「~できていた」、would が入れれば「~するつもりだ」「~する予定だ」「~してくれる」といった意味が加わることになる。

(ex) I wish I could play the guitar well. ギターを上手に弾くことができればなあ

I wish you would give up drinking. あなたが飲酒をやめてくれればなあ

I wish I could have met you then. あの時君に会うことができていたらなあ

- (3) as if [though] { ① S + V [過去]~ 「まるで(今)~である[する]みたい(に)」
 { ② S + V [had+p.p.]~ 「まるで(あの時)~だった[した]かのように」

(ex) She behaves as if [though] she were a queen.

彼女はまるで女王様のように振る舞う

He talks as if [though] he had been a baseball player.

彼はまるで野球選手であったかのように話す

Ⓢ as if の後ろに to不定詞がくるようなこともある。

(ex) He shook his head as if to say no.

彼はあたかもダメだと言わんばかりに首を横に振った

(4) It is (high・about) time S+V(過去)～. 「～すべき時だ」

Ⓢ It is と time の間に

① aboutが入れば「もうそろそろ～すべき時(頃)だ」という意味になる。

② highが入れば「とっくに～してよい時(頃)だ」と、不満を含蓄する。

(ex) It is high time you went to bed. もうとっくに寝る時間ですよ

(5) would rather { ① S+V [過去]～ 「(今)Sに～してほしい」
② S+V [had+p.p.]～ 「(あの時)Sに～してほしかった」

(ex) I would rather you came next weekend. 来週末、家に来てほしいんですが

I would rather you hadn't told him such a story.

そんな話は彼にしてほしくなかったなあ(しないでほしかった)

【5】「前置詞」のポイント。

1.at と in と on の使い分け。

Q : We set out () the morning of October.

①in ②at ③on ④for

上の問題の正解は③。「特定の日(の朝、昼、夕方)」等を表す名詞の前では on が好まれるのだ。(「私たちは十月のその朝、出発した」)。

「時」と「場所」を表す前置詞としての at, in, on の使い分けはよく問われるので要注意。

	at	in	on
時	1点 (幅の狭い時)	幅の広い時	①特定の日(の朝・昼・夕方等) ②曜日
場所	1点 (狭い場所)	①広い場所 ②～の内部に、で	～に接して(上に) ～に面して、沿いに

(ex) at 9:30	in the 20th century	on Monday
at noon	in April	on the morning of the day
at the store	in Japan[Paris]	on the ground
at the station	in the room	on the wall

2.till[until] と by の使い分け。

(1)till[until] 「～まで」 [継続(を表す動詞と共に用いる)]

(ex) I will wait till tomorrow. 明日まで待ちます

(2)by 「～までには」 [完了・期限(を表す動詞と共に用いる)]

(ex) I will finish it by tomorrow. 明日までにはそれを終えます

Ⓢbyとは同じ意味でも、by the time の場合、接続詞なので、直後には「S+V」がくる。

3.for と during の使い分け。

(1)for A(数詞等) 「Aの間」

(ex) I have studied English for six years. 6年間英語を勉強しています

(2)during A(具体的な出来事) 「Aの間」

(ex) I went to Hawaii during the vacation. 休暇中にハワイに行きました

Ⓢ同じ「間(に)」でも、amongは「物理的位置関係」や「分布」に関する場合に用いる。

4.in と after の使い分け。

(1)in 「(今から)～後に」 [主に未来時制と共に用いる]

(ex) I'll be back in an hour. 一時間後に戻ってきます

(2)after 「～後に」 [過去時制と共に用いる]

(ex) He started after a week. 彼はそれから1週間後に出発した

5.beside と besides の使い分け。

(1)beside 「～のわきに、そばに」

(ex) Sit beside me. 私のそばに座りなさい

(2)besides 「～に加えて」

(ex) He drank some beer besides a bottle of whisky.

彼はウイスキーを1本あけた上にビールを少し飲んだ

6.意外な前置詞の意味。

(1)above 「～を超越して」 =beyond

(ex) The lecture was above[beyon] me[my understanding].

その講義は私を超越している → 私には理解できない

She is above telling a lie.

彼女は嘘をつくことを超越している → 決して嘘はつかない

(2) against 「～に反対して」 ⇔ for, in favor of 「～に賛成して」

(ex) Are you for or against my plan? 君はボクの計画に賛成なの、反対なの?

(3) after 「～を求めて、追跡して」 「～にならって、ちなんで」

(ex) The police were after the thief. 警察はその泥棒を追っていた

He was named John after his father.

彼は彼の父親にちなんで名付けられた

(4) but 「～を除いて」 = except, save

☞ butがこの意味になる場合、all, no, little,

(ex) I ate nothing but beef at the party.

any, every等の語がbutの前にくる。

私はパーティーでは牛肉ばかり食べていた

(5) by 「～を持って」 [持つ場所を示すby]

(ex) He caught me by the [× his] arm. 彼は私の腕をつかんだ

(6) over 「～しながら」

(ex) Let's talk about it over a cup of coffee.

コーヒーを飲みながらそれについて話をしよう

7.前置詞の後には「名詞」が基本。「S+V」「不定詞」「動詞」等はこれない。

(ex)
$$\begin{array}{l} \text{During} \\ \text{[前置詞]} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} \text{O my stay in Tokyo} \\ \text{[名詞]} \\ \times \text{I was in Tokyo} \\ \text{[S+V]} \end{array} \right\}, \text{ I met him. 東京にいた間[時]に彼と会った}$$

8.群前置詞。

群前置詞とは、2語以上が集まって1つの前置詞として働くもののこと。下記以外の群前置詞については97ページ以降を参照せよ。

(1) 「理由・原因」を表すもの。「Aのために」「Aのおかげで」

① because of A

④ due to A

⑤ thanks to A

② on account of A

③ owing to A

(2) 「目的」を表すもの。「Aのために」

① for the purpose of A

③ with a view to A

⑤ for the benefit of A

② for the sake of A

④ with the view of A

☞不定詞では、「目的」を表す決まり文句として以下がある。

in order to do[原形]～

so as to do[原形]～

(3) 「譲歩」を表すもの。「Aにもかかわらず」

① in spite of A

③ with all A

⑤ in the face of A

② for all A

④ despite A

◎同じ「～にもかかわらず」でも、thoughは接続詞なので後ろに「S+V」をとる。

in spite of～の仲間はいくまで前置詞なので後ろには「名詞(の仲間)」しかとれない。

(4) 「比較・比例」に関するもの。「Aと比べて」「Aに比例して」

① in[by] comparison with[to] A

③ in proportion to A

☞ ③だけは「Aに比例して」。①②は「Aと

② compared with[to] A

比べて[比較して]」と訳す。

【6】「動名詞」「不定詞」のポイント。

1. 目的語に不定詞だけをとる他動詞。 ◎すべて“未来指向”の動詞なのが特徴。「希望」「意図」「決心」と覚えよう。

(1) 希望…hope「～するのを望む」 desire「～したい」 wish「～したい」 long「～したい」 want「～したい」
care「[否定文・疑問文で]～したい」

(2) ①意図…plan「計画する」 promise「約束する」 fail「～しない・できない」 expect「つもりである」
offer「申し出る」 pretend「～するふりをする」 attempt「～しようとする」 seek「～しようとする」
aim「～しようとする」

②同意・拒絶…agree「同意する」 consent「同意する」 refuse「拒絶する」

(3) 決心…decide「決心する」 determine「決心する」 resolve「決心する」 hesitate「ためらう」 choose「決める」

(4) イディオム…can afford to do[原形]～「～する余裕がある」 manage to do[原形]～ 「どうにか～する」

2. 目的語に動名詞だけをとる他動詞。

◎これらの動詞の頭文字をとって「リックダメガフェプス(RICKDAMEGAFEPS)」と覚える。

Risk「危険を冒す」 Resist「抵抗する」

Imagine「想像する」

Consider「考慮する」 Complete「し終える」

Keep「し続ける」

Deny「否定する」 Delay「遅らせる」 Detest「～するのを毛嫌いする」

Avoid「避ける」 Advise「忠告する」 Appreciate「感謝する」

Mind「気にする」「いやだ」 Miss「し損なう」 Mention「述べる」

Enjoy「楽しむ」

Give up「あきらめる」

Admit「認める」 Adore「～するのが大好きだ」

Finish「終える」

Escape「逃れる」

Put off[=Postpone]「延期する」 Practice「実行する」

Stop「やめる」 Suggest「提案する」

◎これら以外ではquit(やめる)などがある。

3.不定詞、動名詞両方目的語にとれるが、どちらをとったかで意味が変わる他動詞。

(1)不定詞が未来を表わし、動名詞が過去を表わすもの

①remember { to do[原形] ~ 「忘れずに~する (未来)」
doing ~ 「~したことを覚えている (過去)」

②forget { to do[原形] ~ 「~することを忘れる (未来)」
doing ~ 「~したことを忘れる (過去)」

(2)不定詞が能動(する)を表わし、動名詞が受身(される)を表わすもの

①need { to do[原形] ~ 「~する必要がある」
doing ~ 「~される必要がある」 = need[require] to be+p.p. ~
= require[want] doing ~

②want { to do[原形] ~ 「~したい」
doing ~ 「~される必要がある」 = need[require] doing ~

(3)その他

try { to do[原形] ~ 「~しようと(努力)する (未来)」 = seek to do[原形] ~
doing ~ 「試しに~してみた (過去)」 ☞ tryの場合、「to do=未来」「doing=過去」
の内容を表すことが多い。

4.動名詞を用いた慣用表現。

(1)There is no doing ~ 「~できない」

=It is impossible to do[原形] ~

(ex) There is no denying the fact that you told a lie to us.

君が我々に嘘をついたという事実は否定できない

(2)It is no use[good] doing ~ 「~しても無駄だ」

=There is no point (in) doing ~ =What is the use of doing ~?

=No point (in) doing

(ex) It is no use crying over spilt milk.

こぼれたミルクを嘆いても仕方がない ☞ 覆水盆に返らず

(3) never[cannot] ~ without doing... 「~すれば必ず...する」

(ex) My father never goes out without leaving his umbrella in the train.

私の父は外出すれば必ず列車に傘を忘れてくる

(4) of one's own doing～ 「自分自身で～した」

(ex) The cake is delicious and it is of her own making.

そのケーキはおいしいんですが、それは彼女が自分で作ったものなのです

(5) A is worth doing～ 「Aは～する価値がある」

=It is worth (while) doing[to do] A

(ex) The city is worth visiting. その街は訪れてみる価値がある

☞ worthの直後の動名詞は受け身の意味を表す。「(人によって)街は訪ねられる所」と考えて being visitedなどとしてはいけない。

=It is worth (while) visiting[to visit] the city.

(6) spend A(時間・金) (in) doing～ 「Aを～することに費やす」

cf: spend A(時間・金) on B(物事) : 「AをBに費やす」

(ex) Nancy spent a lot of money (in) travelling.

ナンシーは旅行に多額の金を使った

(7) feel like doing～ 「～したい気がする」

(ex) I was so tired that I felt like going to bed soon.

私はとても疲れていたのですぐに寝たい気がした

(8) on doing～ ① 「～するとすぐに」 ② 「～する時には」

=as soon as S+V～

(ex) On seeing me, he ran away. 私を見るとすぐ彼は逃げた

(9) be on the point of doing～ 「まさに～しようとしている」

=be about to do[原形]～

(ex) He was on the point of carrying out his plan at the time.

彼はその時(まさに)自らの計画を実行しようとしていた

5. 「to+doing～」のイディオム。 ☞このtoは前置詞のto。前置詞の後ろなのでV[原形]はこれない。動名詞を用いる。

(1) be[get] used to doing～ 「～することに慣れている [慣れる]」

=be[get] accustomed to doing～

(ex) I'm used to getting up early. 僕は早起きすることになれている

☞ 「used to do[原形]～:(昔)よく～したものだ[過去の習慣]」と混同しないように。

(ex) I used to get up early when young. 若いころは早起きをしたものだった

(2) look forward to doing～ 「～することを楽しみにする (待つ)」

(ex) I'm looking forward to going abroad for study next year.

私は来年留学することを楽しみにしています

(3) what do you say to doing～? 「～したらいかがですか」 [勧誘・提案]

(ex) What do you say to taking a bath before you take supper.

夕飯前にお風呂に入られたらどうです

- (4) devote[dedicate] oneself to doing~ 「~することに専念する」
 (ex) He devote himself to studying. 彼は勉強に打ち込んでいる
- (5) with a view to doing~ 「~するために」 (目的)
 (ex) He works hard with a view to gaining a scholarship[奨学金].
 彼は奨学金を獲得するつもりで一生懸命勉強している
 ④同じ意味でも in order to do[願]~, so as to do[願]~ の to は不定詞。もちろん直後は「(動詞の)原形」がくる。
 (ex) I left early in order to catch the bus. そのバスに乗るために早く出発した
- (6) object to doing~ 「~することに反対する」
 =have objection to doing~
 (ex) I object to carrying out the plan. 私はその計画を実行することに反対だ
- (7) when it comes to doing~ 「~することとなると」
 (ex) When it comes to playing baseball, he is second to none.
 野球をすることとなると、彼の右に出るものはいない

6. 頻出の独立不定詞。

- (1) to say the least (of it) 「控えめに言っても」
 (2) needless to say, ~ 「~は言うまでもない」
 =it goes without saying that S+V~
 (3) strange to say 「奇妙なことに」
 (4) not to mention A 「Aは言うまでもなく」
 (5) to be frank with you 「率直に言って」
 (6) to make matters worse 「さらに困ったことには」
 (7) so to speak 「いわば」

7. 代不定詞。

同じ動詞(動詞+目的語等)を繰り返すのを避けるために、to不定詞の to だけを用いることがある。そのような to だけで終わっている不定詞を見つけたら、直前の動詞部分を補ってみるといい。

- (ex) You can stay here if you want to (stay here).
 ここにいたかったら、いていいよ

8. It is 形容詞 of A(人) to do[願]~.

It is 形容詞 … to do[願]~の構文において、It is の後に「人の性質[格]を表す形容詞」が入ると、直後の前置詞は「of」になる。

- (ex) It is honest of [×for] him to say such a thing in public.
 人前でそんなことを言うなんて彼は正直な人だ

9.動名詞・不定詞・分詞 全てこれらを否定する場合、否定語(notなど)は、その前に置く。

(ex) He told me not to [×to not] break my promise.

彼は私に約束を破らぬようにと言った

Not knowing [×Knowing not] what to say, I kept silent.

何を言っているのかわからなかったので、私は黙ったままでいた

10. 結果の不定詞。

(ex) Her grandmother lived to be eighty. 彼女の祖母は80才まで生きた

「結果」の不定詞は、それを「接続詞+S+V～」で書き換えられるのがポイント。

上例の下線部も till she was eighty と書き換えることができる。

なお、「結果」の不定詞で最もよく出題されるのが only to do～。これは「but S+V～」で書き換えられるのが特徴。

(ex) I hurried only to miss the train. 僕は急いだが、しかし列車に乗り遅れた

=but I missed the train

11. tough構文(直前の形容詞を限定する不定詞)。

tough構文とは、

S + be動詞 + 形容詞 + to do[原形]～

という構文で、不定詞(to do[原形]～)の目的語にあたる名詞が、文の主語と同じであるために、それ(不定詞の目的語)が省かれてしまった構文を指して言う。

具体例を見てみよう。

(ex) This problem is easy to solve. この問題は解くのが簡単だ

上の英文中の (to) solve は元々他動詞で、目的語を必要とする。本来なら

This problem is easy to solve **this problem**.

としたいところだが、文の主語も this problem、つまり文の主語と不定詞(to solve)の目的語が同じであるために、不定詞の目的語だった文末の this problem は省かれてしまっている。

この tough 構文に用いられる形容詞には以下のようなものがある。

1. 「簡単だ・難しい」… easy・difficult[hard, tough]
2. 「重い・軽い」… heavy・light
3. 「安全だ・危険だ」… safe・dangerous
4. 「楽しい・楽しくない」… pleasant[fun]・unpleasant
5. 「可能だ・不可能だ」… possible・impossible

④・tough構文と呼ばれる理由は、たまたまtoughからこの構文の研究が始まったから。

・possibleについては、tough構文として用いられるのは「否定文」「疑問文」「条件文」においてのみ。

例題: This river is dangerous to () in July. (センター試験)

- ① being swum ② swim in ③ swim it ④ swim

【解説】

(1)dangerous には「A is dangerous to B:AはBにとって危険だ」という語法があるが、その場合の to は前置詞で、直後には名詞が来るはず。本問の to は不定詞、つまりこの英文は tough構文だろうと判断する。

(2)tough構文、つまり、to は不定詞と判断できれば、(toの直後は「原形」になるはずで)まず①の可能性はない。

(3)tough構文においては「文の主語＝不定詞の目的語」であり、その「不定詞の目的語」は省かれる。ということは②～④の選択肢の直後に文の主語を補って、上手く「不定詞+目的語」の関係になりうるものが正解となるはず。

そこでそれぞれの選択肢の直後に this river を補ってみる。

② (to) swim in this river ☞ O.K.

③ (to) swim it this river ☞ it this river は明らかにおかしい

④ (to) swim this river ☞ swim は自動詞なので直接後ろに目的語をとることはない。

故に②が正解となる。

12.完了不定詞・完了動名詞。

to have+p.p. や having+p.p. といった完了形の不定詞・動名詞は、主節の動詞よりも1つ前(昔)の内容(時制)を表す。

(ex) He seems to have been ill. 彼は病気だったようにみえる

上の英文の to have been は、主節の動詞(seems[現在時制])よりもひとつ前の時制、つまり過去の内容を表しており、英文全体は以下のように書き換えられる。

→ It seems that he was ill.

(ex) She **is** proud of **having been** a famous actress when she was young.
彼女は若いころ、有名な女優だったことを自慢に思っている

上の英文の **having been** は、主節の動詞(is[現在時制])よりも1つ前の時制、つまり過去の内容を表しており、英文全体は以下のように書き換えられる。

→ She is proud that she **was** a famous actress when she was young.

④ **to do**[原形] や **doing** は、主節の動詞と同じか、それよりも未来の内容(時制)を表す。

ただし **remember** や **forget** の後ろの動名詞は例外(30ページを参照せよ)。

④ 完了形の分詞にも同じルールがあてはまる。つまり完了形の準動詞(不定詞・動名詞・分詞)は全て、主節の動詞よりも1つ前(昔)の内容(時制)を表す。

【7】「副詞」のポイント。

1. 「ほとんど(大半)のA/Aのほとんど(大半)」。

(1) Most A(名) 「(限定されていない)Aのほとんど」

= Almost all A(名)

(ex) Most [Almost all] students want to be taught English conversation.

たいていの学生は英会話を教えてほしいと思っている

(2) Most of the [所有格] A(名) 「(限定された特定の)Aのほとんど」

= Almost all the [所有格] A(名)

(ex) Most of the [Almost all the] students in the class were Americans.

そのクラスのほとんどの学生はアメリカ人だった

引っかけやすい間違い

× Most of A(名)

× Almost A(名)

※ただしAが代名詞の場合は、前にtheは必要ない。

× The most A(名)

× most 所有格 [the] A(名)

(ex) most of them

= almost all of them

④ almost が名詞を直接修飾できないのは、almost が副詞だから。ただし almost anything [nothing / everything] といった形はありうるので注意。

2. 「Sもまた～だ」「Sもまた～ない」。

直前の「肯定文」を受けて、「Sもまた～だ」を「So+V+S」という形で表せる。

また、直前の「否定文」を受けて、「Sもまた～ない」は「Nor [Neither]+V+S」という形で表せる。

① S₁+V～ ⇒ So+V+S₂

「S₁は～だ」[肯定文] 「S₂もまた～だ」

② S₁+not+V～ ⇒ Nor[Neither]+V+S₂
 「S₁は～ない」[否定] 「S₂もまた～でない」

注意してほしいのは、SoやNor[Neither]の後の動詞は前の文の動詞の種類に合わせるという点。

前の文の動詞		SoやNeither[Nor]の後の動詞
一般動詞	→	(代動詞の) do/ does/ did
be動詞	→	be動詞
完了形	→	have/has/had
助動詞	→	前の文と同じ助動詞

(ex) I will not go shopping. Neither[Nor] will Mary.
 V S

僕は買物には行かない。メアリーも行かないだろう

Yesterday Nancy danced cheerfully and so did her sister.
 V S

昨日ナンシーは陽気に踊っていたし彼女の妹も陽気に踊っていた

なお、「私もまた～だ」に関しては「Me, too」、「私もまた～ない」に関しては「Me, neither」も可。

3. -ly が付く形と付かない形で意味が異なる副詞。

near 「近くに」 just 「ちょうど」 hard 「一生懸命に」 ☞ hardは形容詞として「難しい」「硬い」

nearly 「ほとんど～」 justly 「正当に」 hardly 「ほとんど～ない」 「厳しい」という意味もある。

=almost「もうすこしで～」

close 「近く」 sharp 「きっかり」 most 「最も」 late 「遅く」

closely「綿密に」 sharply「鋭く」 mostly「たいてい」 lately「最近」=recently

4. 「あまりに～」という意味の too の強調は「much[far] too」。

(ex) This dress is much[far] too [× very too] long for you.

このドレスはあなたにはかなり長すぎる

【8】「語順・英文構成」のポイント。

1. 間接疑問文の語順に注意。

疑問詞節が文中でS(主語)、O(目的語)、C(補語)になったり、前置詞の後ろに置かれたりする、いわゆる間接疑問文では、疑問詞の後の語順が平叙文(つまり疑問文ではない文)の語順に戻る点に注意する。

(ex) Do you know {
 × when will he arrive?
 ○ when he will arrive?
 [平叙文の語順]

2. 副詞の「so」「as」「how」「too」の直後に冠詞の「a」は置けない。

したがって「so」「as」「how」「too」の直後では、「形容詞」と「a」の語順をひっくり返す。

(ex) He is so good a boy [×so a good boy] that we like him.
 彼はとてもいい少年なので我々は彼が好きだ

㊦ 「such」なら、「such a good boy」と言える。なお、as が「～として」という意味の前置詞なら、「as+a+形容詞+名詞」は O.K.

(ex) as a good father:良き父として ㊧前置詞の as。

副詞の as とは「A is as ~ as B: AはBと同じくらい～だ」という場合の as。

3. A(形容詞・副詞) + enough to do[形] ～ で「～するほど十分Aだ」。

(ex) He is active enough to play tennis on every Sunday.
 (形)

彼は毎週テニスをするほど活動的だ

㊦「enough+形容詞・副詞」の語順はない。

4. However { (形) } S+[may]+V, で「たとえどんなにSが～しようとも」。
 [No matter how] { (副) }

(ex) However hard you may try, you can't finish it by yourself.
 どんなに君が頑張っても、一人でそれを一人で終わられないよ

5. (準)否定の副詞が文頭に出ると、その後ろの主節は「疑問文の語順」になる。

(1) 否定の副詞・・・never「決して～ない」、on no account「決して～ない」、in no sense「決して～ない」、
 in[under] no circumstances「決して～ない」、by no means「決して～ない」等

(2) 準否定の副詞・・・little「ほとんど～ない」、few「ほとんど～ない」、rarely「めったに～ない」、
 seldom「めったに～ない」、no sooner「ほとんど～ない」、scarcely「ほとんど～ない」

hardly「ほとんど～ない」、only「～してはじめて」、not until「～してはじめて」等

(ex) I never dreamed that she would win the contest.

⇨ Never did I dream that she would win the contest.

彼女がコンテストで優勝するとは夢にも思わなかった

④ nor は、品詞としては接続詞だが、「もまた～ない(=and also+not)」と、否定の意味を持っているので、この nor の後ろも「疑問文と同じ語順」になる。

(ex) He had no money, nor did he know anyone he could borrow from.

彼は金を全然持っていなかったし、また金を借りられる人も知らなかった

6. 「do you think[suppose/believe]」と「do you know」の位置が狙われることがある。
do you think系は疑問詞の後ろに置く、do you know は疑問詞の前に置くと覚えよ。

(1) 疑問詞 + do you think[suppose] + 平叙文の語順？ ☞ 「平叙文(つまり疑問文ではない普通の語順)」

(ex) Who do you think will be our new leader? に、後半部が戻る点にも注意。

我々の新しいリーダーは誰になると思う

(2) Do you know + 疑問詞 + 平叙文の語順？

(ex) Do you know why he didn't come? なぜ彼がこなかったか知ってるか

7. 「他動詞 + 代名詞 + 副詞」の語順に注意。

他動詞の目的語が「代名詞」だった場合、必ずその「代名詞」は、他動詞の直後に置かなければならない。

(ex) ○ carry it out

× carry out it

目的語が「名詞」だった場合は、他動詞の直後に必ずしも置かなくてもいい。

(ex) ○ carry out the plan

○ carry the plan out

8. 「⑤+⑥ so ~ that S+V…」と「⑤+be動詞 such that S+V…」の「so～」と「such」の部分が文頭に飛び出すと、主節部分は「疑問文の語順」になる。

(ex) John's wife is so young that she is pretty without makeup.

ジョンの奥さんはとても若いので、化粧をしなくてもかわいい

→ So young is John's wife that she is pretty without makeup.

Her anger was such that she became ill.

彼女の怒りは大変なものだったので彼女は病気になってしまった

→ Such was her anger that she became ill.

9. How come の後には平叙文の語順が来る。

○ How come you are crying? どうして泣いているんだい

× How come are you crying? ☞ Why are you crying? なら可。

【9】「助動詞」のポイント。

1. needには、助動詞のneedと(一般)動詞のneedがある。※助動詞のneedは「疑問文」「否定文」でしか使わない。

(ex) 「君は来る必要がない」

(一般)動詞のneedは、「疑問」「否定」「肯定」いずれ

◇ You need not come. [助動詞] でも使える。

=You don't need to come. [(一般)動詞]

☞助動詞の否定は、助動詞の後ろにnotをつけなければならない。つまり助動詞のneedは「need not」が否定形になる。(一般)動詞の場合、直前にdon't[doesn't/didn't]をつけることによって否定文を作るので、(一般)動詞のneedの場合、don't等を直前につけねばならない。更に「～する必要がある」という場合には、「need to do[原形]～」と、to不定詞が直後にくる。だから全体は「don't need to do[原形]～」という形になる。以下のような選択肢に引っ掛からないように注意せよ!

× don't need come × need to not come

× need not to come

2. 「助動詞+have+p.p.～」 。 ☞助動詞の後ろの「have+p.p.～」は“過去の目印”と考えよ!

(1) must

(1) 「～した [だった] に違いない」

(2) may

(2) 「～した [だった] かも知れない」

(3) can't

(3) 「～した [だった] はずがない」

(4) should

(4) 「～すべきだった(のに実際にはしなかった)」

ought to

had better

(5) need not

(5) 「～する必要はなかった (のに実際にはした)」

☞should[ought to]+have+p.p.には「(当然)～したはずだ」「(当然)～してしまっているはずだ」という意味もある。こちらも要注意。

3. 「not」の位置に注意すべき助動詞。 ☞要するにnotを置く位置は不定詞(to do/ do[原形])の直前と覚えよ!

(1) 「ought to do[原形]～」の否定形は「ought not to do[原形]～」。

(ex) You ought not to say such a thing in public.

[×ought to not]

人前でそんなことを言うべきではない

(2) 「had better do[原形]～」の否定形は「had better not do[原形]～」。

(ex) You had better not go out by yourself. 一人で外出しないほうがいい

[×had not better]

(3) 「would rather do[原形]～:(むしろ～したい)」の否定形は「would rather not do[原形]～」。

(ex) I would rather not say anything about politics.

[× would not rather]

政治については語りたくない

4. should の注意すべき用法3パターン。

(1) 「要求」「提案」「命令」「決定」を表す動詞や形容詞の後ろの that 節内の動詞は、「(should)+do[原形]～」にする。

① 要するにこれらの動詞や形容詞は、人に行動を強く促すような「命令的」な意味(～せよ、～すべきだ、～した方がいい)を持つのが特徴である。

② should は省略できるが、その場合、後の動詞は「原形」のままにしておかなくてはならない。

S + Vt + that S + (should) + 動詞の原形～。

※下線を引いた語は頻出!

- ↑ ○
- ① 要求 (demand「要求する」, require「要求する」, ask「要求する」, request「要求する」等)
insist「要求する」, urge「要求する」等)
 - ② 提案 (suggest「提案する」, propose「提案する」, advise「忠告する」, recommend「推薦する」等)
 - ③ 命令 (command「命令する」, order「命令する」等)
 - ④ 決定 (decide「決定する」等)

形容詞 + that S + (should) + 動詞の原形～。

↑

necessary「必要な」, urgent「緊急に必要な」, important「重要な」, essential「不可欠な」
no wonder「当然だ」, natural「当然な」, desirable「望ましい」, advisable「望ましい」

(ex) He insisted that I (should) pay the bill. 彼は私が勘定を払うよう言い張った

It is necessary that you (should) pack and leave at once.

君はすぐに荷造りして出かける必要がある(出かけた方がいい)

(2) 「感情・判断の should」。

① 疑問詞の後ろに置いて、驚きや意外な気持ちを表わす。「一体(全体)」と訳す。

(ex) How should I know? 一体どうして私が知っているというの

② It is + 形容詞(分詞)・名詞 + that S + V～の構文で、

1. (「良い」「悪い」といった)話者の主観的判断を表したい

2. (「驚き」「哀れみ」といった)話者の感情を強調したい

場合に、that 節内で「should+do[原形]～」が用いられる。☞このshouldは省略できない。

(ex) It is lucky that the weather should be so nice.

天気がこんなにいいなんてついている

It is a good thing that he should study harder than before.

彼が前よりよく勉強することはいいことだ

(3) for fear S+should[would/might]+do[原形]～「～しないように[するといけないので]」

(ex) I took my umbrella for fear it should rain.
雨が降るといけないので傘を持って行った

5. その他の助動詞と助動詞を用いた慣用表現。

(1) had better+do[原形]～「～した方がいい」 ☞「警告」「脅し」を含意することもあるので、通例目下の者に対して用いる。

(ex) You had better go there. 君はそこに行った方がいい

(2) would rather[sooner] do[原形]～ (than do[原形]…) 「(…するより)むしろ～したい」

(ex) I would rather sleep than watch TV. テレビを見るよりむしろ寝たい

(3) How dare S+V～? 「よくも～するものだな」 ☞相手に対する非難を表す表現。

(ex) How dare you say such a thing to me?

私に向かってよくもそんなことが言えるものだな

☞ dareもneedと同じように、疑問文・否定文でしか使わない助動詞だが、受験で出るのはほとんど上記の表現。

(4) may[might] well do[原形]～「～するのももつともだ」

(ex) You may well get angry with him. 君が彼に腹を立てるのはもつともだ

(5) may[might] as well do[原形]～ [as do[原形]…] 「[…するくらいなら]～した方がまだ」

(ex) You might as well throw your money away as lend it to him.

彼に金を貸すくらいなら捨ててしまったほうがまだ

(6) cannot help doing～「～せずにはいられない」

=cannot but do[原形]～

(ex) I could not help telling her the truth of the matter.

僕は彼女に事の真相を話さずにはいられなかった

(7) cannot～ too…「～して…しすぎることはない」

(ex) You cannot be too careful in choosing your friends.

友人を選ぶ際には、注意してしすぎるということはない

【10】「分詞」のポイント。

1. 文法問題における分詞の選び方の基本。

(1) 分詞が名詞を(直前直後から)修飾している場合には、修飾する名詞に対して

① 「能動(～する・している)」の意味関係になるならdoing(現在分詞)を用いる。

(ex) Look at the little boy nodding [×nodded] in the corner.

あのすみっこで居眠りしている小さな男の子を見てごらん。

②「受身(～される)」の意味になるなら p.p.(過去分詞)を用いる。

(ex) The tests given[×giving] to the students were very difficult.
生徒に渡されたテストはとても難しかった

(2)分詞が「SVC」の「C」、「SVOC」の「C」になる場合は、「SVC」なら SとCの意味関係、「SVOC」ならOとCの意味関係が「能動(SはCする・OはCする)」になるならdoing(現在分詞)を、「受身(SはCされる・OはCされる)」になるならp.p.(過去分詞)を用いる。

(ex) They found him hiding in a cave.

S V O C [現在分詞]

彼らは彼がほら穴に隠れているのを見つけた

☞英語は常に「人間中心」にその意味関係(受身か能動か)を考える!

I had my wallet stolen on the bus. バスで財布を盗られた

S V O C [過去分詞]

2. 「感情」「被害」を表す動詞の分詞形に注意せよ。

①「感情」を表す動詞。

surprise A(人等)「Aを驚かす」

satisfy A(人等)「Aを満足させる」

bore A(人等)「Aを退屈させる」

disappoint A(人等)「Aを失望させる」

interest A(人等)「Aに興味を抱かせる」

please A(人等)「Aを喜ばせる」

②「被害」を表す動詞。

hurt A(人等)「Aを傷つける(事故等で)」

wound A(人等)「Aを傷つける(戦い等で)」

injure A(人等)「Aを傷つける(事故等で)」

これらの動詞を分詞形にする際、現在分詞にするか過去分詞にするかの見分け方は主語を目印にするといいことが多い。つまり、「人(感情を有するもの。又は「表情」)」が主語の場合は、過去分詞形にし、「物(ある感情を引き起こす原因となるもの)」が主語の場合は、現在分詞形にする。

(ex) It is disappointing that he failed in the exam.

S(物) [現在分詞]

彼が試験に落ちたのががっかりだった

I was disappointed at the result. 僕はその結果にがっかりした

S(人) [過去分詞]

☞後ろの名詞を修飾している場合は、それが「物」を表す名詞なら「感情・被害の分詞」は「現在分詞形」を、「人(又は「表情」)」を表す名詞なら「過去分詞形」に入れてほしい。それから、「SVOC」の「C」に「感情・被害の分詞」を入れる場合、直前の「O」が「物」を表す名詞なら「現在分詞形」、「人(又は「表情」)」を表す名詞なら「過去分詞形」に入れてほしい。

(ex) I saw his bored look. 私は彼の退屈した表情を見た

S V [過去分詞] O(表情)

His exciting lecture is very popular and never makes students bored.
 [現在分詞] S(物) V C V O(人) C[過去分詞]
 彼のワクワクする講義はとても人気で、学生を決して退屈させない

3. with O C 構文。「OがCの状態」。

(1) Oには「名詞(代名詞なら目的格)」が入る。

(2) Cには「形容詞」「分詞」「前置詞＋名詞」「副詞」などが入る。

(3) OとCには、意味上「主語と述語の関係(「OはCする(される・になる・である)」という意味関係)」が成立している。

會したがって、withの後ろの語句に主語と述語の関係、つまり「OはCする(される・になる・である)」という意味関係」が成立していたら、with O C 構文なのではないか、と頭を働かせる。

(ex) with the ribbon flying in the wind 風にリボンをなびかせながら

[現在分詞]

with one's legs crossed 足を組んだ状態で

[過去分詞]

4. 間違えやすい分詞構文。 會特に過去分詞で始まる分詞構文は要注意。

(ex) Seen[×Seeing] from a distance, it looks like a human face.

遠くから見ると、それは人間の顔のように見える

上記の問題、なぜ seeing が不正解なのかわかるだろうか。見極めのポイントは「主節の主語との関係(受身か能動か)」について考えてみること。

上記の問題では、主節の主語は「それ(it)」。つまり「物」だ。「物」である「それは、人によって「見られる」側だ(「物」には目がついてないので「物が見る」ということはあり得ない)。つまり see との関係は「(「見られる」という受身)。だから過去分詞の Seen が正解になる。

(ex) Seeing[×Seen] it from a distance, you may take it for a human.

遠くから見ると、君はそれを人間と間違えるかも知れない

上例の場合は、主節の主語は「あなた(you)」。つまり「人」だ。「人」である「あなた」は「見る」側だ。つまり see との関係は「(「見る」という能動)。だから現在分詞の Seeing が正解になる。

(ex) The man stood with his arms folded[×folding].

その男は腕を組んで立っていた

上例は「with O C」構文だが、これも「O」と「C」の関係が能動か受身かで決める。「彼の腕(his arm)」は、腕の持ち主の「人」によって「組まれる」もの、つまり「受身」の関係になる。だから過去分詞の folded が正解になる

【11】「名詞」のポイント。

1. 頻出の「不可算名詞(数えられない名詞)」。

(1) ある種類全体を表わす集合名詞

machinery「機械類」 baggage「荷物類」 luggage「荷物類」 furniture「家具類」
 poetry「詩歌」 mail「郵便物」 clothing「衣類」 merchandise「商品」
 scenery「景色」 fruit「果物」 game「獲物」 food「食物」

㊦ machineryは機械類全体を表す名詞なので数えることはできないが、machineは1つ1つの機械を表す名詞なので数えることができる。同様の関係がpoetry「詩歌」とpoem「(1つ1つの)詩」にもあてはまる。以下にこのような名詞をまとめてみた。

ある種類全体を表すもの(数えられない)	それを構成する個々のもの(数えられる)
baggage[luggage]「手荷物」	bag, suitcase, box等
furniture「家具」	table, chair, bed等
scenery「1地方全体の景色」	scene「(個々の)景色」
pottery「陶器類」	pot「(個々の)陶器」

(2) 物質名詞

water「水」 rubbish「ゴミ」 sugar「砂糖」 salt「塩」 money「金」
 rain「雨」 rice「米」 coffee「コーヒー」 bread「パン」 fire「火」

(3) 抽象名詞

advice「忠告」 progress「進歩」 information「情報」 damage「被害」 news「知らせ」
 evidence「証拠」 weather「天気」 wisdom「知恵」 harm「害」 fun「楽しみ」
 proof「証明」 attention「注意」 knowledge「知識」 music「音楽」 luck「運」
 leisure「余暇」 conduct「態度」 homework「宿題」 behavior「行為」

㊦「抽象名詞」とは、具体的な形を持たない抽象的な概念の名で、性質・状態・動作・感情・学問・主義・運動・病気などを表す名詞。

㊦「不可算名詞」は数えられないので冠詞の「a」「the」などはつかないし、もちろん複数形の「~s」もつかない。

㊦「数えられる名詞(可算名詞)」と「数えられない名詞(不可算名詞)」の見分け方。

①「数えられる名詞」…(名詞)を聞いてイメージ(形・まとまり)が具体的に浮かぶもの。つまり絵に描けるもの

②「数えられない名詞」…(名詞)を聞いてイメージ(形・まとまり)が具体的に浮かばないもの。つまり絵に描けないもの。

2. 必ず複数形を用いなければならない表現。

- | | |
|---|--------------------|
| (1) make <u>friends</u> with A | 「Aと友達になる」 |
| (2) shake <u>hands</u> with A | 「Aと握手する」 |
| (3) in <u>terms</u> of A | 「Aの点で」 |
| (4) be on ~ <u>terms</u> with A | 「Aと～な間柄である」 |
| \cup 「～」の部分には、「good[良い]」「bad[悪い]」「speaking[言葉を交わす]」「visiting[訪ね合う]」などが入る。 | |
| (5) change <u>trains</u> at ~ | 「～で列車を乗り換える」 |
| (6) take <u>turns</u> (in) doing ~ | 「交替で～する」 |
| (7) take <u>turns</u> (in/at) doing ~ | 「交替で～する」 |
| (8) put on <u>airs</u> | 「気取る」 |
| (9) give one's best <u>regards</u> to A (人) | 「Aによろしくと伝える」 |
| (10) take <u>measures</u> (against A) | 「(Aに対して)対策[措置]を取る」 |
| (11) come to terms | ①「合意する」 ②「あきらめて従う」 |

3. 「a people/ peoples」は「民族」「国民」。

- (ex) The Japanese are said to be a hard working people.
日本人は勤勉な国民であると言われている

4. 「of+抽象名詞」は形容詞化する。

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| (1) of importance = important | 「重要な」 |
| (2) of value = valuable | 「価値ある」 |
| (3) of equal value = equally valuable | 「同様に価値のある」 |
| (4) of great use = very useful | 「とても役に立つ」 |
| (5) of no use = useless | 「役に立たない」 |

5. 「with+抽象名詞」は副詞化する。

- | | |
|---------------------------------|--------|
| (1) with ease = easily | 「たやすく」 |
| (2) with diligence = diligently | 「勤勉に」 |
| (3) with kindness = kindly | 「親切にも」 |
| (4) with care = carefully | 「注意深く」 |
| (5) with rapidity = rapidly | 「素早く」 |

6. 数詞を含む形容詞には複数の「s」はつけない。

ハイフンで結ばれた「数詞+名詞」が後の名詞を修飾する場合、必ず「数詞+単数名詞」にする。

- (ex) ○ a ten-year-old boy 10歳の少年
 × a ten-years-old boy

7. have the+抽象名詞 to do[原形]~ で「〇〇にも~する」。

(1) have the boldness to do[原形]~ 「大胆にも~する」「~する大胆さがある」

(2) have the courage to do[原形]~ 「勇敢にも~する」「~する勇気がある」

(3) have the cruelty to do[原形]~ 「残酷にも~する」「~する残酷さがある」

(ex) I didn't have the courage to say that. 私にはそれを言う勇気がなかった
He had the boldness to demand that. 彼は厚かましくもそれを要求した

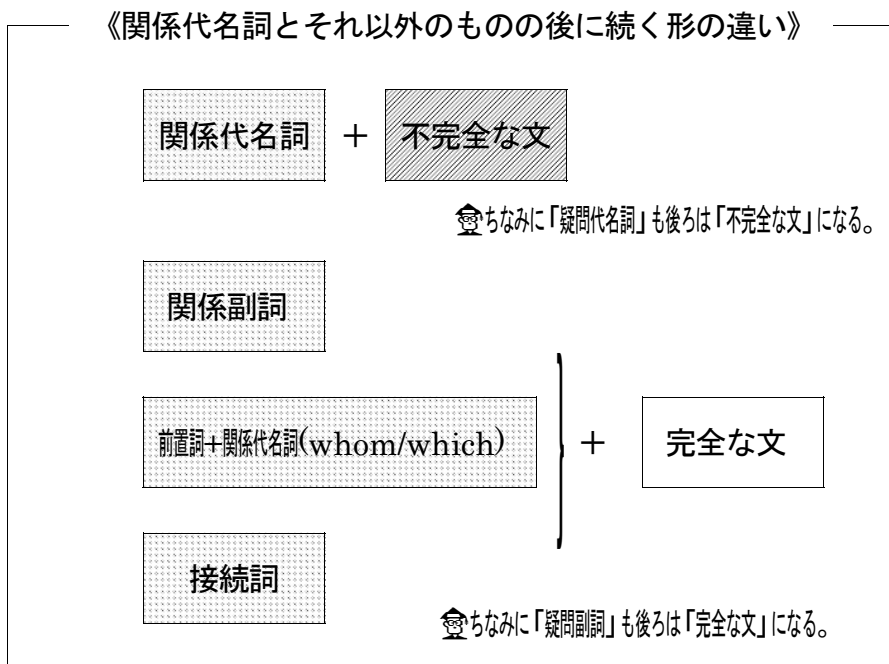
【12】「関係詞」のポイント。

1. 基本

英文法問題で、選択肢が関係詞（関係代名詞・関係副詞）だった場合、まず注目すべきなのは以下の2点。

- ① () の後の形。つまり () の後が「完全な文」なのか、それとも「不完全な文」なのか。
- ② () の前の形。つまり先行詞の有無。

まず①について、関係詞の後に続く形をまとめてみると次ページのようになる。



(注)「不完全な文」とは、S(主語)、O(目的語)、C(補語)、所有格のうちのどれか一つが欠けた文のこと。

このように、関係代名詞(と「疑問代名詞」)だけが後に「不完全な文」を導くことがわかる。
次に、どの関係代名詞を入れるかを見極める際にも () の後の形が大変参考になる。

(1)主格

主格の関係代名詞(先行詞が「人」ならwho、「物」ならwhich)は、直後に(主語の欠けた)「動詞」をとる。

※「先行詞」とは、関係詞の前に置かれ、関係詞節によって修飾される名詞のこと。

主格 + ⊙ + V (ex) Look at the man who is reading a book.
主格 V 注語の欠けた「V」がくる。
 ↑
 ⊙が欠けている!

(2)目的格

目的格の関係代名詞(先行詞が「人」ならwhom、「物」ならwhich)は、直後に(目的語の欠けた)「S+V」をとる。

目的格 + S+V_t + ○ (ex) The dog which I like belongs to Tom.
目的格 S V 目的語の欠けた「S+V」がくる。
 ↑
 ○が欠けている!

⊙関係代名詞の目的格は省略することができる。したがって目的格が省略されると名詞の後ろに直接「S+V」がくっついた形になる。

(ex) The dog I like belongs to Tom.
[名詞] S V_t

(3)所有格

所有格の関係代名詞(whose)は、直後に「(本来あるべき)所有格の欠けた名詞」をとる。

所有格 + ⊙ + 所有格の欠けた名詞 (ex) The house whose roof is red is mine.
所有格 所有格の欠けた名詞
 ↑
 所有格が欠けている!

⊙所有格の関係代名詞だけは、それが修飾する名詞と必ずワンセットで文の中盤に(二文をつなぐ接着剤として)移動する点に注意。

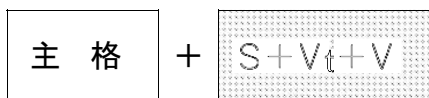
(ex) She mentioned a book. + I can't remember the book's title.
 → She mentioned a book whose title I can't remember.
 彼女はある本について話したが、そのタイトルを思い出せない

上例の文でも、whose とそれが修飾する名詞の title がワンセットで文中盤に移動している。

(4) ()S+V V~型

文法問題で空欄の直後が「S+V_t V~」(V_tの部分には「言う(say)」「思う(think,

know, believe, suppose等)型の動詞がくる)という構造になっていたら、空欄には主格の関係代名詞が入る。



(ex) I saw a woman who I thought was a friend of my mother's.
 主格 S V_t V

母の友人だと私が思った女性を見かけた

會するに、関係代名詞の格は、後続の文の中の欠けている格と一致する。

次に②について、関係詞の前の形（先行詞の有無）についてまとめてみると

(1)先行詞を必要としない関係代名詞

①what

②関係代名詞+ever (ex) whoever, whichever, whateverなど

(2)関係副詞の中で、howだけは、先行詞の the way か、how 自身のどちらか一方を必ず省略しなければならない(つまり「the way how S+V～」という形はない)。ただし、how を in which で言い換えて、「the way in which S + V～」とするのはO.K.

(ex) That is how they stole it from the store. そういうふうにして彼らはそれをその店から盗んだ

=That is the way they stole it from the store.

=That is the way in which they stole it from the store.

=That is the way that they stole it from the store. ☞the way thatも可。

×That is the way how they stole it from the store.

上記以外で関係詞に関するポイントをいくつかあげてみる。

2.関係代名詞の that は、直前に「カンマ(,)」や「前置詞」があつたら使えない。

(ex) I visited Mr. Yamada, who[×that] warmly welcomed me.

山田さんの所に行ったら彼は暖かく迎えてくれた

You are the only person on whom[×that] we can depend.

あなたは我々が頼れる唯一の人です

3.関係代名詞の what を用いたイディオムは頻出。

(1)what we[you,they] call 「いわゆる」

=what is called

(2)what A(人・物) is

①「現在のA」 ②「Aの人柄」

(3)what A(人・物) was[used to be]

「昔のA」

(4)what things are

「現状（物事の今の有り様）」

(5)what with A, and (what with) B 「AやらBやらで」

- (6) what is 比較級 「さらに～なことには」 ☞ ちなみに what is more
 (7) A is to B what[as] C is to D 「AとBの関係はCとDの関係と同じだ」 は、「おまけに、その上、更に」。

4. その他。

(1) This[That] is why S + V ~ 「こ[そ]ういうわけで～」

(ex) This is why I was absent from school yesterday.

こういうわけで昨日学校を休んだのです

cf: This is because S + V ~ 「というのは～だからだ」

(2) This[That] is how S + V ~ 「こ[そ]ういうふうに～」

(ex) This is how I solved the question. こんなふうに僕はその問題を解いた

(3), where 「そしてそこで」 ☞ 場合によっては「しかしそこで」「なぜならばそこで」と訳した方がいいこともある。

(4), when 「そしてその時」

☞ 「+関係副詞」となるのは where と when のみ。「, why」「, how」という言い方はない。

5. 関係詞問題へのアプローチ法のまとめ。

《関係詞関連の問題 解法のコツ》

☞ 選択肢が関係詞だったら、キーワードは「後ろを見てから、前を見よ!!」。

つまり

(1) ()の後ろが「完全な文」なのか「不完全な文」なのか?

① 後ろに「不完全な文」を導くのは関係代名詞だけ。

② 「関係副詞」「前置詞+which[whom]」「接続詞」は後ろに「完全な文」を導く。

※ 「A(名詞)+of+which[whom]」でワンセットで関係代名詞の働きをするものには注意。後ろに「不完全な文」を導く。

(ex) Look at the car the roof of which is shining.

[名詞+of+関係代名詞] [不完全な文]

※ 「前置詞+what」の後ろには「不完全な文」が続くので注意。

③ 「不完全な文」なら、どの関係代名詞が入るかも、「後ろの形」で決定する。

※ 一言で言えば、「関係代名詞の格は後続の(関係詞)節内の欠けている格と一致する」。

(2) 次に()の前に先行詞があるのかないのか?

① 先行詞なしで使える(逆に言えば先行詞があれば使えない)関係代名詞は以下の2つしかない。

1.what

2.関係代名詞+ever ④ whoever, whichever, whatever 等。

つまり、空欄の後ろが「不完全な文」で、空欄の前に先行詞になれそうな名詞がなければ、上記の2つのどちらかが空欄に入ることになる。

特に what が導く節は(「wha we call:いわゆる」等の決まり文句を除いて)基本的にS・O・Cのどれかになる。

②逆に先行詞があるならそれは「人」なのか「もの」なのかが who, whom と which の入れ分けの決め手になる。

③()の前に「前置詞」や「,」があったら、正解に(関係代名詞の) that は、もうあり得ない。

④関係副詞が入ると断定できた場合は、関係副詞は、先行詞が「場所」なら where、「時」なら when、「理由(reason, cause)」なら why と、決まっているのでわかりやすい。

⑤ the way[manner] how S+V～ という形はない。以下のいずれかで表す。

1.the way[manner] S+V～

2.how S+V～

3.the way[manner] in which S+V～

⑥「,+関係副詞」となるのは when と where だけ。逆に言えば「, why」「, how」という言い方はない。

【13】「代名詞」のポイント。

1.「それ」を表す it、one、that の使い分け。

それぞれ直前の名詞の繰り返しを避けるために用いられるが、

(1) it は、その直前の名詞と「同一の(特定の)もの」(「the+既出の名詞」で言い換えられる)。

(ex) Nancy gave me a watch and I lost it [=the watch].

ナンシーから時計をもらったが、それ(同一物)をなくした

(2) one は、その直前の名詞と「同種の(別の不特定の)もの」(「a+既出の名詞」で言い換えられる)。

(ex) I lost my watch. So I must buy one [=a watch] tomorrow.

時計をなくした。だから明日それ(同種の物)を買わないといけない

(3) that[those]は、うしろから「関係詞節」や「前置詞＋名詞」といった後置修飾語で修飾されている場合に用いる(元の名詞が複数名詞の場合は、thoseを用いる)。

(ex) The climate of Japan is milder than that[=the climate] of England.
日本の気候はイギリス(の気候)よりも穏やかだ

Elephants from Africa are bigger than those[=elephants] from India.
アフリカ象はインド象よりも大きい

☞ those who+V～で「～する人々」。those は the people の代用。

☞ また、one は不可算名詞を受けられない。it は形容詞や冠詞を前に置けない。

(ex) I like white wine better than red (wine).

私は赤ワインより白ワインの方が好きだ [× red one]

I like that dress — I mean the second one from the right.

あのドレスが好き。右から2番目のドレスなんだけど [× the second it]

2. one と the other(s)、another などの使い分け。

(1) one と the other

2つあるうちのどちらかを選んで one とした場合、残ったひとつのことを the other という。

● ○
↑ ↑
one the other(残った1つ)

☞ one と the other だけが「2者間」で用いる。「2」というキーワードを問題文から読み取れたら正解は the other と思ってい。

(2) one と the others

3つ以上あるうちのどれかひとつを選んで one とした場合、あとの残りの全部のことを the others という。

● ○…○○○
↑ ↑
one the others(残りの全部)

(3) one と another

3つ以上あるうちのどれかひとつを選んで one とした場合、その one 以外の別のどれかひとつのことを another という。

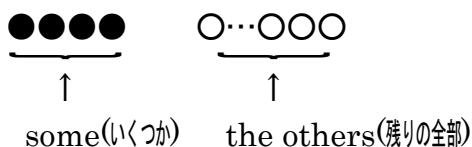
● ○○○…○
↑ ↑
one another(one以外の別のどれか1つ)

(ex) I don't like this one; show me another.

これはどうも気に入らない。ほかの(1つ)を見せておくれ

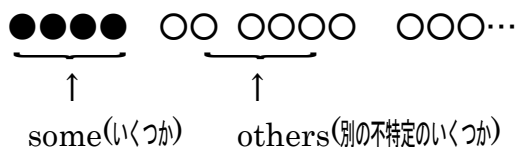
(4) some と the others

3つ以上あるうちのいくつかを選んで some とした場合、あとの残りの全部のことを the others という。



(5) some と others (3つ以上あるうちの) 「いくつか」と「別の不特定のいくつか」

3つ以上あるうちのいくつかを選んで some とした場合、また複数の別のいくつかのことを others という。訳し方は「～というものもいれば…というものもいる」



3. 「前置詞+oneself」のイディオム

- | | | |
|----------------------------|-------------------------|------------|
| (1) by oneself 「一人で」=alone | (4) of itself | 「ひとりでに」 |
| (2) for oneself ① 「独力で」 | (5) beside oneself | 「我を忘れて」 |
| ② 「自分のために」 | (6) between ourselves | 「ここだけの話だが」 |
| (3) in itself 「それ自体」 | (7) in spite of oneself | 「思わず」 |

4. another の注意すべき用法。

another には、上記のような one とセットで用いる以外に、いかのような用法が受験で頻出。

(1) one after another 「(3つ以上が)次から次へと」「続々と」

(ex) Fighter planes took off one after another from the airport.
=One fighter plane after another took off from the airport.
戦闘機がその飛行場から続々と飛び立っていった

(2) A is one thing and B is another. 「AとBは異なる」

=A is different from B.

(ex) To know is one thing and to teach is quite another thing.
知っていることと教えることは全く異なる(別物だ)

(3) another + 数詞[又はfew] + A (複数名詞) 「あと(もう)～」

上記の表現は「数詞+more+複数名詞」で書き換えることもできる。

(ex) He'll be back in another three days [=three more days].
彼はあと3日たてば帰るよ

(4) 「同類」という意味の another。

(ex) If I'm a liar, you're another. 僕が嘘つきなら君も同類さ[君だって同じさ]

(5) one another 「お互い」 =each other

⚠「one another」「each other」は共に「お互い」という意味の代名詞。前置詞の後に置かれたり、他動詞の目的語にもなれる。
「お互いに」という副詞だと勘違いしている受験生がいる。要注意である。

(ex) They talked with one another[=each other]. 彼らは互いに語り合った
(前) (代名詞)

【14】「比較」のポイント。

1. 倍数表現（「Aの□倍～である」）。

□ times as～as A.	「Aの□倍～だ」
=□ times the length of A.	「Aの□倍の長さだ」
(height)	(高さ)
(number)	(数)
(size)	(大きさ)
(weight)	(重さ)
(price)	(価格)

(ex) This building is three times as high as that one.

このビルはあのビルの3倍の高さだ

=This building is three times the height of that one.

⚠ただし

① 2倍は twice を用いる。

× two times as ~ as A.

○ twice as ~ as A

※「two times ~er than A」という表現はあるが、これは一般的な言い方ではない。

② 半分は half を用いる。

× half times as ~ as A.

○ half as ~ as A 「Aの半分の～だ」

③ 4分の1は a quarter[又は one fourth] を用いる。

○ a quarter as ~ as A 「Aの四分の一の～だ」

④ 「AはBの3分の1の大きさだ」などのように分数を入れる場合には、
「□ times」の部分に分数を入れればよい。

(ex) Spain is one third as large as Japan.

⚠ちなみに分数は、分子を基数(one, two, three...)で、分母を序数(third, fourth, fifth...)で表す。分子が2以上の場合、分母に複数のsをつけるのを忘れないように。(ex) two thirds : 3分の2

2. 比較の対象を間違えてはならない。

× The climate of Japan is milder than England.

⊕ 比較は同じ種類のもの同士でしかできない。つまり「日本の気候」と「英国」を比較することはできない。「日本の気候」と比較可能なのは、「英国の気候」。

○ The climate of Japan is milder than that of England.

=the climate of England

日本の気候は、英国(の気候)よりも穏やかだ

3. 比較級・最上級を強調する単語や語句を整理せよ。

(1) 比較級を強調するもの(veryは使わない)

much, far, by far, a lot 「はるかに、ずっと」 even, still 「更に」

(2) 最上級を強調するもの

very 「まさしく」 much 「ずばぬけて、抜群に」 far 「ずばぬけて、抜群に」 by far 「ずばぬけて、抜群に」

⊕ ただし、「very」とそれ以外では、その位置が異なる点に注意せよ!

(ex) This is the very best dictionary.

=This is much[far/ by far] the best dictionary.

4. 原級比較・比較級を使って最上級と同じ意味の表現ができる。

S+V the ~est of[in]... 「Sは…のうちで最も～だ」という最上級の構文を「比較級」や「原級比較」を用いて書き換える場合、以下の二種類の書き換えが可能。

(1) ⑤ + ⑥ + $\left\{ \begin{array}{l} \text{as[so] ~ as} \\ \text{~er than} \end{array} \right\}$ any other+単数名詞. 「⑤は他のいかなるOOより(と同じく)～だ」
[all the other+複数名詞]

⊕ any other thing 「他の何物よりも」=anything else

any other person 「他の誰よりも」=anyone[anybody] else

(2) $\frac{\text{No+(other)+単数名詞}}{\text{⑤}} + \text{⑥} \left\{ \begin{array}{l} \text{as[so] ~ as} \\ \text{~er than} \end{array} \right\} + \text{A}$. 「Aほど～なものはない」

⊕ 「No+(other)+単数名詞」は「Nothing」「No one」などになることもある。

(ex) Love is the most important thing (of all).

=Love is as[so] important as anything else.

=Love is more important than anything else.

=Nothing is as[so] important as love.

=Nothing is more important than love.

5. thanを使わない比較表現がある。

「～より(も)」を than ではなく to を使って表すのは以下の2パターンだ。

①語尾が ior で終わる形容詞

② prefer とその派生語

- | | | |
|---------------------------------|--------------------|---|
| (1) A is superior <u>to</u> B | 「Aは、Bより優れている」 | ☞ これらの形容詞に比較級はないので注意。つまり more superior などといった表現はない。preferable も同じ。more preferable という表現はない。 |
| (2) A is inferior <u>to</u> B | 「Aは、Bより劣っている」 | |
| (3) A is senior <u>to</u> B | 「Aは、Bより年上である」 | |
| (4) A is junior <u>to</u> B | 「Aは、Bより年下である」 | |
| (5) prior <u>to</u> A | 「Aより(時間・順序等)前に(の)」 | |
| (6) posterior <u>to</u> A | 「Aより(時間・順序等)後に(の)」 | |
| (7) prefer A <u>to</u> B | 「BよりAを好む」 | |
| (8) A is preferable <u>to</u> B | 「AはBより好ましい」 | |

6. 「the+比較級」となる構文は4タイプ。

(1) the+比較級 of the two 「2者のうちより～な方」

☞ 「of the two」が文頭にくる場合もある。とにかく英文のどこかに「of the two」があったら、比較級に the をつけよ!

(ex) He is the taller of the two. 2人のうち背の高い方が彼です

(2) the+比較級 S + V~, the+比較級 S + V… 「～するほど、それだけ(いっそう)…」

(ex) The harder he tried, the more mistakes he made.

頑張れば頑張るほど彼はますます間違いをおかした

(3) all[so much] the+比較級~ for[becauseなど]… 「…の故にますます～」

(ex) I love her all the more for her faults.

欠点があるが故にますます彼女のことが好きだ

(4) none the+比較級~ for[becauseなど]… 「…にもかかわらず少しも～ない」

(ex) He is none the better for the medicine he took.

彼は薬を飲んだにもかかわらず少しも良くなるらない

cf: none the less:それにも関わらず

7. 原級比較・比較級・最上級を用いた慣用表現。

(1) as ~ as S can = as ~ as possible 「できるだけ～」

(ex) Run as fast as you can. できるだけ速く走れ

= Run as fast as possible.

(2) not so much as do[原形]～「～さえもしない」

(ex) He can not so much as write his own name.
彼は自分の名前を書くことすらできない

(3) not so much A as B 「AというよりはむしろB」

= rather B than A =more B than A

= B rather than A =less A than B

(ex) He is not so much a scholar as a politician.

彼は学者というよりむしろ政治家である

=He is rather a politician than a scholar.

=He is a politician rather than a scholar.

(4) know better than to do[原形]～「～するほど馬鹿ではない」

know better 「(～するよりも) もっと思慮分別がある」

(ex) I know better than to tell the stories to him.

私はその話を彼にするようなばかなことはしない

You should know better at your age.

お前の年ではもっと分別があるべきだ。→年がいがいいぞ

(5) 否定文～+much[still] less A 「～ない。ましてAはなおさら～でない」

=let alone

(ex) He cannot speak English, much less German.

彼は英語を話せない。ましてドイツ語を話すことなどできない

(6) S is the last person[man/thing] $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]～} \\ \text{that[関・代]～} \end{array} \right.$ 「Sは決して～しない」

(ex) He is the last man to tell lies. 彼は決して嘘をつくような人ではない

Jack was the last person that I expected to see there.

ジャックにそこで会うなんて全く思っても見なかった

【15】「接続詞」のポイント。

1.接続詞基本チェック。()に正しい意味・訳をいれよ。

(1) if S+V～

① [副詞節になる場合] 「もし～なら」 ☞ 文頭の if は、基本的に「もし～なら」である。

② 同じく副詞節になる場合として、次の英文訳せますか？

If he gives me a lot of money, I will not accept his offer.

③ [know, doubt, wonder等の動詞の目的語となる節を導く場合] ()

(ex) S wonder if[whether] S'+V~:「~かしら(と思う)」

O

S know if[whether] S'+V~:「~かどうか知っている」

O

S doubt if[whether] S'+V~:「~かどうかうたがう」

O

S ask me[him, her等] if[whether] S'+V~:「私[彼・彼女等]に~かどうか尋ねる」

O₁

O₂

Ⓢ whetherとの違いは、ifは「主語」として文頭で用いられることはない点。

(2) b e c a u s e S+V~

① 「~なので」

② just[merely/simply] because S+V~ ()

(ex) You should not love a man just because he is handsome.

Ⓢ just以外に、only, simply, chiefly などの程度を表す副詞で限定されることが多い。

Ⓢ 上例のように主に否定文と共に用いられる。

③ partly because S+V~ ()

(3) w h i l e S+V~

① 「~の間」

② ()

③ ()

(4) w h e t h e r S+V~ (or not/A or B)

① [(whether節が)主語・補語・目的語になる場合] ()

Ⓢ ①の意味になる場合、「or not」は省略可能。

② [(whether節が)主語・補語・目的語にならない場合] ()

(5) o n c e S+V~ ()

(6) s i n c e S+V~ ① 「~して以来」

② ()

(7) e v e n i f [t h o u g h] S+V~ ()

(8) u n l e s s S+V~ ()

(9) t h o u g h [a l t h o u g h] S+V~ ()

(10) t i l l [u n t i l] S+V~ ()

- (11) as if [though] S+V~ ()
- (12) so that S+may[can, will]+V[原形]~ ()
 (ex) My mother woke me up at seven so that I could catch the train.
- (13) not A but B ()
- (14) not only A but also B ()
- (15) as soon as S+V~ ()
- (16) It is not until~ that S+V... ()
- (17) 命令文+ { ① and ()
 「~せよ」 ② or ()
- (18) both A and B () = A and B alike
 =at once A and B
- (19) either A or B ()
- (20) neither A nor B ()
- (21) , for S+V~ ()
- (22) now that S+V~ ()
- (23) in that S+V~ ()
- (24) provided [providing] S+V~ ()
- (25) as [so] long as S+V~ ① ()
 ② ()
- (26) as [so] far as S+V~ ()
- (27) for fear (that) S+should[might, would]+V[原形]~
 ()
- (28) suppose [supposing] S+V~ ()
- (29) in case S+V~ ① ()
 ② ()
 ③ [just in case で] ()
- (30) whereas S+V~ ()

- 解答:(1)②「たとえ多額のお金をくれるとしても、
僕は彼の申し出を受けるつもりはない」
④このように、ifをそのまま訳して意味
が通じない場合は、evenを補って、
「たとえ～としても」と訳すと良い。
- ③～かどうか
 (2)②～だからといって
 「その人がハンサムだからといって
 好きになるべきではない」
 ③ある面では～だから、なので
 (3)②～だけれど ③その一方～
 (4)①～かどうか ②～であろうとなかろうと
 (5)一度～すると
 (6)～なので
 (7)たとえ～(だ)としても
- (8)～しない限り
 (9)～だけれど、～にもかかわらず
 (10)～まで
 (11)まるで～かのように
 (12)Sが～する(できる)ように
 「母は、私とその列車に乗れる
 ように7時に起こしてくれた」
 (13)AではなくてB
 (14)AだけではなくBもまた
 (15)～するとすぐに
 (16)～してはじめて…する
 (17)①そうすれば ②さもないと
 (18)AとB両方とも
 (19)AかBどちらか一方
 (20)AとBどちらも～ない
- (21)というのは～だからだ
 (22)今はもう～なので
 (23)～の点で、～なので
 (24)もし～なら = Suppose [Supposing]
 (25)①～の間(=while) ②～しさえすれば
 (26)～の限りでは
 as far as I know 「私の知る限りでは」
 as far as I'm concerned 「私に関する限り」
 (27)Sが～するといけないので、～しないように
 (28)もし～なら
 (29)①もし～なら ②～するといけないので、～しないように
 ③万に備えて
 (30)～であるのに、その一方で

2. that節の代用。

「I hope」や「I'm afraid」等の後ろでは

- ①本来「肯定の that節」にすべきところを so で
 ②本来「否定の that節」にすべきところを not で
 代用してもいいというルールがある。

(ex) A: Will he get well soon? 「彼はすぐよくなるだろうか」

B: I hope that he will get well soon. 「そう思うよ」 = I hope so.

A: Will it rain tomorrow? 「明日は雨だろうか」

B: I hope that it will not rain tomorrow. 「降らないと思うよ」 = I hope not.

A: Will she make mistakes again? 「彼女また間違えるだろうか」

B: I'm afraid that she will make mistakes. 「そう思うよ」 = I'm afraid so.

A: Will it be fine tomorrow? 「明日は晴れるだろうか」

B: I'm afraid that it will not be fine tomorrow. 「晴れないと思うよ」
 = I'm afraid not.

④ちなみに上の例文を見ても分かるように「I hope」の後には「望ましい」内容が、
 「I'm afraid」の後には「望ましくない(あってほしくない)」内容が来る。

④もちろん so/ not は、hope/ be afraid 以外にも、think, suppose[思う],
 expect[予想する], guess[推測する], believe 等の後ろにもおける。使い方は、上記と
 同じである。ただし、

I think[suppose, expect, believe, guess] not.

=I don't think[suppose, expect, believe, guess] so.
で書き換えられるのが、hope/ be afraid とは異なる。つまり

I don't hope so.

I'm not afraid so.

とは言えない。

《「～するとすぐ…した」》

(1) As soon as S + V [過去]~, S₁ + V₂ [過去]….

=The moment

=The instant

=The minute

=The second

=Immediately

(2) On Ving~, S₁ + V₂ [過去]….

(3) S + had + □ + p.p. ~ ■ S₁ + V₂ [過去]….

☞(3)だけは、前半部分が「過去完了形」になることがある。

※「過去形」でも間違いではない。

□ + had + S + p.p. ~ ■ S₁ + V₂ [過去]…

☞□が文頭に出ると、直後が疑問文と同じ語順に変化する。

[疑問文と同じ語順]

□	:	■
<u>no sooner</u>		<u>than</u>
<u>hardly</u>		<u>before[when]</u>
<u>scarcely</u>		<u>before[when]</u>

(ex)As soon as he saw me, he began to cry. 彼は私を見るとすぐに泣きだした

= The moment he saw me, he began to cry.

= The instant he saw me, he began to cry.

= The minute he saw me, he began to cry.

= Immediately he saw me, he began to cry.

= On seeing me, he began to cry.

= At the sight of me, he began to cry.

= He had no sooner seen me than he began to cry.

= No sooner had he seen me than he began to cry.

= He had scarcely seen me when[before] he began to cry.

= Scarcely had he seen me when[before] he began to cry.

= He had hardly seen me when[before] he began to cry.

= Hardly had he seen me when[before] he began to cry.

《時に関する接続詞の重要構文》

(1) It will not be long before S+V… 「まもなく…するだろう」

(ex) It won't be long before he can speak English. won't = will not
 すぐに彼は英語を話せるようになるだろう

(2) It was not long before S+V… 「まもなく…した」 =before long, soon

(ex) It was not long before I realized the trick.
 まもなく私はその計略に気付いた

(3) It is not until ~ that S+V… 「～してはじめて…する」

=not until ~ + do+S+V… ☞ It is と that が省略されると、後半の主節は疑問文と同じ語順になる。
 [疑問文の語順]

(ex) It is not until we lose our health that we realize its value.
 =Not until we lose our health do we realize its value.
 健康を失って初めて我々はその価値に気付く

(4) ⑤+had not+p.p. ~ before[when] S+V(過去)… 「～しないうちに…した」

(ex) I had not waited long before he came along.
 そんなに待たないうちに彼がやってきた
 I had not gone very far before it began to rain.
 そんなに遠くに行かないうちに雨が降りだした

(5) ⑤+will have+p.p. ~ by the time S+V… 「…までには～していることだろう」

(ex) You will have had own family by the time you are thirty.
 君も30才になるまでには、自分の家族を持っていることだろう

(6) every[each] time S+V ~ 「～するたびごとに」 「～するときはいつも」

=whenever

(ex) Each time a man came in, another went out.
 1人が入ってくるたびに、別の1人が出ていった

(7) any time S+V ~ 「～するときはいつも」 =whenever

(ex) Any time she couldn't have her own way, she got angry.
 彼女は思い通りにならないときはいつでも腹を立てた

《「as ~ as S+V」の慣用表現》

(1) as soon as S+V ~ 「～するや否や」

(2) as ~ as S can 「できるだけ～」 =as ~ as possible

The child shouted for help as loudly as he could[as loudly as possible].
子供はできるだけ大声で助けを呼んだ

(3)as[so] long as S+V～

①「～する間(は)」 [期間] =while S+V～

(ex) As long as I live, I will not forget your kindness.
生きているかぎり、あなたの親切は忘れません

②「～しさえすれば」 [条件] =if only S+V～

(ex) You can go out so long as you come home before dark.
暗くなる前に帰ってくるなら、外出してもいい

(4)as[so] far as S+V～ 「～する限りでは」 [範囲]

(ex) As far as I know, 私が知る限りでは

As far as I am concerned, 私に関する限りでは

⦿ 「as[so] long as」 と 「as[so] far as」 の使い分け方。

「as long as」 と 「as far as」 は、いずれも「…する限りでは」と訳されるが、前者(つまりas[so] long as S+V～)は「時間の限度」と「条件」を表し、後者(つまりas[so] far as S+V～)は「範囲[程度]の限度」を示すのが違い。つまり「範囲」というニュアンスが感じられる場合には as[so] far as を、「期間・条件」のニュアンスが感じられる場合には as[so] long as を使うといい。

《意外な条件を表す接続詞》

(1)in case S+V～ 「①もし～なら ②～の場合に備えて、～だといけないので」

(ex) In case I'm late, don't wait for me to start dinner.
もし私が遅れたら、待っていないで食事を始めなさい
Take your umbrella with you in case it rains.
雨が降る場合に備えて傘を持って行きなさい

(2)suppose[supposing] (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Suppose[Supposing] your father saw us together, what would he say?
君の父さんが僕達が一緒にいるのを見たら、なんて言うだろう

(3)Assuming (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Assuming (that) you are right, you may carry out the plan.
もし君が正しいなら、その計画を実行してもよろしい

(4)on (the) condition (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) He can go out on condition (that) he comes home by five.

彼は5時までには帰宅するのなら出かけてもよい

(5) unless S+V~ 「~でない限り」

(ex) You will miss the last train unless you walk more quickly.
もっと速く歩かない限り、最終列車に乗り遅れますよ

(6) providing[provided] (that) S+V~ 「もし~なら」

(ex) Providing[Provided] you accept my offer, I will do anything.
もしあなたが僕の申し出を受け入れてくれるなら、なんでもします

④(1)「supposed (that) S+V~」や、「provide (that) S+V~」という形はない。

②「Suppose (that) S+V~」は命令文なので、文頭で必ず用いるという点も頭に入れておこう。

③「suppose[supposing]」「in case」以外は仮定法で使うことはない。

《because, since, as 以外の「理由」を表す接続詞》

(1) S+V~, for S+V... 「というのは…だからだ」

(ex) It was just twelve o'clock, for the church bell was ringing.
ちょうど12時だった。というのは(なぜなら)教会の鐘が鳴っていたからだ

(2) now (that) S+V... 「(今はもう)…だから」

(ex) Now (that) we are all here, we can begin.
みんな集まったからには始められるぞ

(3) seeing (that) S+V... 「…だから」

(ex) Seeing (that) you don't know about it, nobody can blame[非難する] you.
それを君自身は知らないのだから、誰も君を非難することはできない

(4) on the ground(s) (that) S+V... 「…という理由で、…なので」

(ex) My nephew was excused on the ground that he was young.
私のおいとは若さに免じて許された ground:「根拠」

(5) in that S+V... 「…という点において、…だから」

(ex) Men differ from brutes in that they can think and speak.
人間は考えたり話したりできるという点でけだものとは違う

④接続詞の that の前に、前置詞がこれるのは、上記の「in that S+V~」以外に以下のようなイディオムがある。

except[but] that S+V~:~を除いて ⑤このthatは省略が可能。

(ex) This is a good book except (that) the price is a little too high.
値段が少し高すぎる点を除けばこれは大変よい本である

【16】「態」のポイント。

1. by 以外の前置詞を用いる受動態。

☝これらは一種の慣用的な表現としておさえておこう。

- (1) be known $\left\{ \begin{array}{l} \text{to A(人)} \quad \text{「Aに知られている」} \\ \text{for A(理由)} \quad \text{「Aで有名だ」} = \text{be famous[noted] for A} \\ \text{as A(人・物)} \quad \text{「Aとして知られている」} \end{array} \right.$

cf: A man is known by the company he keeps. ☞このbyは「判断の基準」を表わすby。受身のby
「人は自分が持っている仲間で(もって)判断される → 付き合っている仲間を見ればその人がわかる」 ではないので要注意。

- (2) be interested in A 「Aに興味がある」
(3) be surprised[astonished] at A 「Aに驚く」
(4) be pleased with A 「Aに満足する」
(5) be satisfied with A 「Aに満足する」
(6) be covered with A 「Aで覆われている」
(7) be crowded with A 「Aで混み合っている」
(8) be engaged in A 「Aに従事している」
(9) be occupied with A 「Aで忙しい」
(10) be caught in A 「Aに遭(あ)う、見舞われる」
(ex) be caught in a shower にわか雨に遭う
(11) be absorbed in A 「Aに夢中になる」
(12) be acquainted with A 「Aと知り合いである」
(13) be terrified of A 「Aを恐がる」 = be scared of A
(14) be killed in A 「Aで死ぬ」
(15) be filled with A 「Aで満たされている」
(16) be convinced of A 「Aを確信している」

2. 群動詞の受動態。

複数の語句がひとかたまりで、ある特別な意味を表す群動詞【句動詞】を含む英文を受動態にする場合、その群動詞全体を一つの他動詞とみなし、ワンセットで移動させる。

(ex) He laughed at me. 彼は私を笑った

たとえば上の英文の場合、laugh at ワンセットで「～を笑う」という意味を表す。したがって laugh at ワンセットでひとつの「他動詞」と判断し、受動態を作る際もワンセットで移動させる(つまりバラバラにしない)。

→ I was laughed at by him. 私は彼に笑われた

at と by という前置詞が連続して、一見違和感があるが、問題ないのである。
以下に、それ全体をひとつの他動詞とみなすような群動詞の具体例を見てみよう。

(1) 自動詞＋前置詞

laugh at A 「Aを笑う」 look into A 「Aを調べる」
send for A 「Aを呼びにやる」 deal with A 「Aを処理する、扱う」
bring about A 「Aをもたらす」 keep on A 「Aを身につける」

(ex) The parents sent for the doctor. 両親は医者を呼びにやった
→The doctor was sent for by the parents.

(2) 他動詞＋名詞＋前置詞

take care of A 「Aの世話をする」 do away with A 「Aを取りのぞく」
look forward to A 「Aを楽しみにして待つ」 make use of A 「Aを利用する」
lose sight of A 「Aを見失う」 find fault with A 「Aを非難する」
pay attention to A 「Aに注意する」 take advantage of A 「Aを利用する」

(ex) I must take care of my dog. 私は犬の世話をしなければならない
→My dog must be taken care of by me.

㊦ 「他動詞＋名詞＋前置詞」型の動詞句では、他動詞の後の名詞を主語にして受動態を作れるものもある。

(ex) We took advantage of the chance. 我々はそのチャンスを利用した
→The chance was taken advantage of. そのチャンスは利用された
→Advantage was taken of the chance.

We must take good care of old people. 老人をよく世話しなければならない
→Old people must be taken good care of.
→Good care must be taken of old people.

I was surprised at the use which was made of it.
私はその利用のされ方(仕方)に驚いた

3. 知覚動詞・使役動詞の受動態。

(1) 知覚動詞が作る S V O C の C が動詞の原形だった場合、これが受動態になると、
動詞の原形だった C は to do [原形] ～ に変化する。

知覚動詞＋O＋do [原形] ～ ⇨ O＋be＋知覚動詞の過去分詞＋to do [原形] ～
 C (S) C

(ex) I saw him enter the room. 私は彼がその部屋に入るのを見た
→He was seen to enter the room. 彼はその部屋に入るのを(私に)見られた

(2)使役動詞の make (「〇に(強制的に)～させる」)の場合も知覚動詞と同様、能動態時に動詞の原形だったCが受動態になると to do[原形]～に変化する。

make + O + do[原形]～ ⇨ O + be made + to do[原形]～
C (S) C

(ex) My mother made me wash the dishes. 母は私に皿を洗わせた
→ I was made to wash the dishes by my mother.
私は(母により)皿を洗わされた

4.進行形の受動態。

會「～している(最中だ)」という進行形(be動詞+doing～)と「～される」という受動態(be動詞+p.p.～)がドッキングした「進行形の受動態」は、意味的には「～されている(最中だ)」ということになり、形としては「be動詞+being+p.p.～」で表す。

進行形「～している(最中だ)」 + 受動態「～される」
be動詞+doing～ be動詞+p.p.

⇩

「～されている(最中だ)」

be動詞+being p.p.

(ex) Now the bridge is being repaired.
現在その橋は修理されている最中である ⇨ 修理中である

【17】 その他の頻出の文法事項。

1.頻出の「S + V + O + to do[原形]～」のパターン。

C

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| (1)want O(人・物) to do[原形]～ | 「〇に～して欲しい」 |
| (2)would like O(人) to do[原形]～ | 「〇に～していただきたい」 |
| (3)expect O(人・物) to do[原形]～ | 「〇が～するのを期待する、予期する」 |
| (4)enable O(人) to do[原形]～ | 「〇が～するのを可能にする」 |
| (5)force O(人) to do[原形]～ | 「〇に無理やり～させる」 |
| (6)allow O(人) to do[原形]～ | 「〇が～するのを許可する」 |
| =permit O to do[原形]～ | |
| (7)tell O(人) to do[原形]～ | 「〇に～するよう言う」 |
| (8)order O(人) to do[原形]～ | 「〇に～するよう命令する」 |
| (9)persuade O(人) to do[原形]～ | 「〇に～するよう説得する」 |
| (10)advise O(人) to do[原形]～ | 「〇に～するよう忠告する」 |

- (11)ask O(人) to do[原形]～ 「Oに～するよう求める、頼む」
 (12)cause O(人・物) to do[原形]～ 「Oに～させる」
 (13)get O(人・物) to do[原形]～ 「Oに～させる」
 (14)encourage[urge] O(人) to do[原形]～ 「Oに～するよう促す」
 (15)warn O(人) to do[原形]～ 「Oに～するよう警告する」

2. 頻出の「S+V+O+do[原形]～」のパターン。

C

- (1)make+O+do[原形]～ 「Oに～させる」 [強制] =force+O+to do[原形]～
 (2)let+O+do[原形]～ 「Oに～させる」 [許可] =allow[permit]+O+to do[原形]～
 (3)have+O+do[原形]～ 「Oに～させる(してもらう)」 =get+O+to do[原形]～
 (4)help+O(人)+do[原形]～ 「Oが～するのを手伝う」 =help+O(人)+ to do[原形]～
 (5)知覚動詞+O+do[原形]～ 「Oが～するのを見る(聞く・感じる…)」

※原形不定詞はこのようにC(補語)になったり、また助動詞などの直後に置かれることはあっても、to不定詞とは違って、S(主語)になることはない(O(目的語)になることは「help do[原形]～:～するのを手伝う」等の決まり文句的なもので例外的に見られる)。

🔍この種の動詞は大半が「Sは、Oが(を)Cするよう仕向ける(方向に向ける)」という意味になるのが特徴である。

(注)このルールの例外にはexpect、知覚動詞、それから forbid O to do[原形]～(Oが～するのを禁じる)などがある。

(ex) He ordered his girlfriend to go there. 📧「彼は自分のガールフレンドがそこに行く方向に仕向けた」で、大枠の意味はとれてしまう。

3. 「All S can[have to] do is to do[原形]～」のtoは省略されることがある。

(ex) All you have to do is (to) do your best. 君は全力を尽くしさえすればいい

All we can do is (to) wait for him. 僕たちは彼らを待つ他ない

🔍toが省略できるのは、is[was]の前にdoがある場合のみ。それ以外の一般動詞の場合は、toは省略しない。

(ex) All I can give you is to say "Good luck". 「幸運を祈ります」としか言えません

4. ago と before の使い分け。

(1)ago 「今から〇〇前に」という意味。

①単独では用いない。

(ex) I have seen him before[×ago].

②過去時制と共に用いる。現在完了時制と共に用いない。

(2)before

①単独で、現在完了・過去時制・過去完了と用いる。「(今より)前に、以前に、今まで(に)」という意味。

(ex) I (have) heard of it before. 前にそのことを聞いたことがあった[ある]

②具体的な期間を示すと(the day before, two days before等のような形で)過去完了と共に用いる。「過去の一時点を基準として、それよりも〇〇日(月・年)前に」という意味。

(ex) I had met her two years before. その2年前に彼女に会ったことがあった
罫上の英文は、「(ある過去の一時点を基準にして)その2年前に彼女に会ったことがあった」という意味。

5.不定代名詞の呼応。

<u>each</u>	「それぞれ」	☞ これらが代名詞として用いられる時は「単数扱い」。
<u>every</u> +単数名詞	「全ての～」	頭文字がすべて「e」なので覚えやすい。(neitherも
<u>either</u>	「どちらでも」	eitherの否定と考えれば)。
<u>neither</u>	「どちらも…ない」	またこれらが形容詞的に使われる場合、直後の名詞は単数名詞となる。たとえば「each+単数名詞」等。これらも「単数扱い」となる。

(ex) Each was dressed neatly. それぞれがきれいな服装をしていた

Either plan is possible to realize. どちらの計画も実現可能です

Every boy and girl in the school is well educated.

その学校の生徒達はしつけがよく行き届いている

罫上文のように、every(each)のかかる名詞がandで結ばれていたとしても、単数扱いに変わりはない。

6. 「a number of A:多くのA」は「複数扱い」。

「the number of A:Aの数」は「単数扱い」。

(ex) A number of people are fond of playing baseball.

多くの人々は野球をするのが好きだ

The number of people who smoke has decreased. 喫煙者の数は減少している

罫上その他よく出題されるものとして「『more than one+名詞』は複数扱い」「『学問・国名・新聞』は単数扱い」等といったものがある。

7.進行形の意外な用法。

進行形は「進行中の動作(～している最中だ)」という意味を基本的に表すのだが、これ以外の進行形の「意外な用法」もおさえておこう。つまり進行形は進行中の動作を表わす以外に、以下のような用法もある。

(1)「確定的な近未来」の内容を表現できる。

特に現在進行形の場合は、元来が「現在～している最中だ」という意味があるので、そこから転じて「現在既に計画、予定、又は手はずなりが進行中で、それによって(近未来に)予測されるであろう出来事」に関して使うことができる。
このような現在進行形の用法は、近い未来の個人的な予定を表すことが多い。

(ex) We are **getting** married next April. 私達は来年の4月に結婚する予定だ

(2)進行形が(「～ばかりしていやがる」といった)話者の不満・いらだちを込めた「習慣的行為」を表わすことがある。

會この意味では、always「いつも」、constantly「絶えず」、forever「永遠に」、all the time「いつも」など、頻度の副詞を伴うことがほとんど。その場合、話者の不満・いらだち・当惑・不快などを表わしているとみていい。

(ex) My wife is always complaining about something.
妻はいつも何か愚痴をこぼしている

(3)状態動詞を進行形で用いると「一時的な状態」を表せる。

(ex) I usually live in Nagoya but I **am living** in Shizuoka city on business.
私は普段は名古屋に住んでいますが、今は仕事で静岡に住んでいます
また「be being+形容詞」で「(いつもと違って)今日はやけに～だ」という意味になる。

(ex) He is being bossy today. 彼は今日はまたやけに威張っているじゃないか

8.指示代名詞・冠詞・不定(疑問)代名詞などを所有格と並べて用いることはできない。

指示代名詞…this[these], that[those] 等	不定代名詞…some, any, none等
冠詞 …a, the	疑問代名詞…whose, what, which等

× that[a] my friend	⇨	○ that[a] friend of mine
× Mike's this camera	⇨	○ this camera of Mike's

會このように「of+所有代名詞(mine, yours, ours, his, hers, theirs)」や「of+所有格(の名詞)」を用いて表す。

a[an]	}	+ 名詞 + of + 所有代名詞	[所有格(の名詞)]	☞所有格の代名詞は不可。
this[these]				
that[those]				
⋮				

會所有代名詞というのは「所有格+名詞」のこと。

(ex) This racket is mine[=my racket].

9. 疑問詞を強調する語句(副詞)。

疑問詞の後ろに以下のような語句をつけて疑問詞を強調できる。。その部分は「一体(全体)」等と訳す。

疑問詞 + $\left\{ \begin{array}{l} \text{on earth} \\ \text{in the world} \\ \text{the hell} \\ \text{the devil} \end{array} \right\}$ + 疑問文の語順?

- (ex) Why on earth did you do that? 一体全体どうしてそんなことをしたの
What in the world happened? 一体何が起こったのか
What the hell are you doing here? 一体全体ここで何してるんだ
Who the devil is he? 一体あいつは誰だ

10 不可算名詞の数え方。

information や advice, news 等の抽象名詞を数える場合には「a piece of ~」を用いる。

- (ex) a piece of baggage [luggage] 「(1個の) 荷物」
a piece of furniture 「(1個の) 家具」
a piece of information 「1つの情報」

更に複数形の「s」の位置を間違えやすい名詞には注意が必要。

- ① a piece of baggage → two pieces of baggage 「2つの荷物」
× two piece of baggages
② a piece of advice → three pieces of advice 「3つの忠告」
③ father-in-law → fathers-in-law 「義理の父」
④ passer-by → passers-by 「通行人」

11 「過去の習慣(昔よく~したものだ)」を表す used to と would の違い。

(1) would は「状態動詞」と一緒に用いない(「動作動詞」と共に用いる)。

× People would believe that the earth was flat.

人々は地球は平らだと信じていたものだった

會 believe は状態動詞なので、would を「過去の習慣」の意味で使うことは出来ない。しかし、used to は、「状態動詞」「動作動詞」どちらとも使うことができるので上記の例文は以下のように書き直せば正解となる。

○ People used to believe that the earth was flat.

ちなみに used to の意味は以下の通り。

- ① used to + 動作動詞: (昔)よく~したものだ [過去の習慣]
② used to + 状態動詞: (昔)~だった [過去の状態]

特に used to be は was[were]と意味が同じと置いていい。

(ex) He is not what he used to be. 彼は昔の彼ではない
=He is not what he was.

(2)現在と対比された文脈では used to を用いる(would は使えない)。

つまり used to には「今は違うのだが…」というニュアンスが込められる

(ex) I used to smoke when I was young, but now I don't.
若いころはタバコを吸ったものだ。しかし今は吸わない

12 疑問詞についての頻出事項。

(1)疑問代名詞と疑問副詞の違い。

①疑問代名詞(who, what, which)、更にそれが導く節・句は文の主要素(S、O、C)になれるのに対して、疑問副詞(when, where, why, how)、更にそれが導く節・句は文の主要素(S、O、C)になれない点に注意。

例外その1:when が代名詞として、until[till], since などの前置詞とともに用いられることもある。この場合、前置詞は文尾に置かない。

(ex) Till when can you stay here? いつまでここに滞在できますか

例外その2:where が疑問代名詞として前置詞の目的語になることもある。この場合は、前置詞は文尾に置くのがふつう。

(ex) Where are you from? ご出身はどちらですか

例外その3:疑問副詞の中で how は、C(欄)になることができる。

(ex) How is your brother? お兄さんはいかがですか

②疑問代名詞は関係代名詞同様、後ろに不完全な文(構造)がくるのに対し、疑問副詞の後ろには関係副詞同様、後ろには完全な文(構造)がくる。

《演習》 () made him so angry?

①What

②Why

③How

④About what

【解答・解説】

意味は「なぜ彼はそんなに怒ったの」だが、これも空欄の後ろが不完全な文(いきなり動詞のmadeで始まっている)なので、疑問副詞のwhyは入れない。

正解は①のwhat。「何が彼をそんなにも怒らせたのか」が直訳になる。

(2)「How~?」と「What~?」の使い分けがよく問われる。

①What do you think of A? 「Aをどう思いますか」

=How do you like A?

- (ex) “What[×How] did you think of the movie?” あの映画をどう思った？
 “It was too slow for me.” ぼくには退屈すぎたね
 “How[×What] do you like your new tie?” 新しいネクタイどうですか
 “Very much.” とても気に入っています

愈ちなみに How do you like A?には「A＝飲食物」の場合、「Aをどう(調理)しますか」と、調理(の仕方)の好みを問う表現もあり、こちらも要注意。

(ex) “How[×What] do you like your coffee?”

コーヒーはどう召し上がりますか

“Just cream, please.” クリームだけにしてください

②How do you spell A? 「Aをどう綴りますか」

What do you call A? 「Aをなんと言いますか」

(ex) “What[×How] do you call this in English?” これを英語ではどう言います
 “We call it a ‘screwdriver’.” スクリュードライバー(ネジ回し)と言います

③What do you say to doing~? 「~するのはどうですか」

(ex) “What[×How] do you say to going to the movie?” 映画に行くのはどうかな
 “I’d love to.” 行きたいわ

④What is A like? 「Aはどんなものであるのか」

(ex) What[×How] is the weather in England like? 英国の天気はどうですか

⑤その他

(ex) How[×What] was the weather during your trip? 旅行中の天気はどうでした

(3)What を用いた頻出の慣用表現。

① What ~ for?

1.なぜ、なんのために

(ex) What did he kill himself for? なぜ彼は自殺したのですか

=Why did he kill himself?

=How come he killed himself? ☞ How come の後ろだけは「S+V」の語順になる点に注意せよ!

“I’d like you to stay with me here.” ボクとここに残ってほしい

“Oh? what for? え、何のために? ☞ For what? とは言わない。

=How come

=why

2.どんな目的で

(ex) What’s this old lamp for? この古いランプは何に使うのですか

② What is A like? Aはどんなものであるのか

(ex) What is your new job like? あなたの新しい仕事はどうか

㊦この構文は、Aの部分が仮主語になったパターンも入試では頻出。

(ex) You don't know what it is like to be really poor.

本当に貧乏であるということがどんなものかお前にはわからない
上の例文でも、what の直後の it は仮主語で to be really poor が真主語
であり、Aにあたる。

③ What if S+V~?

1. ~ならどうなるだろうか

(ex) What (would[will] happen) if my father should die?

もし万一お父さんが死んでしまったらどうなるだろう

2. たとえ~だとしても、それがどうしたというのだ [反語]

(ex) What (does it matter) (even) if Jack believes the rumor?

たとえジャックがその噂を信じるとしてもかまうものか

④ What is S all about? Sはいったい何(について)なのか

(ex) What is the story[letter] all about? それは一体何の話[手紙]ですか

What's it all about? 人生って何なの

㊦「what S is all about: Sにとって[ついて]何より大切なこと」という表現
もある。この what は関係代名詞とみた方が良い。

(ex) Winning is what baseball is all about.

勝つことが野球にとって何より大切なことだ

⑤ What become of A? Aはどうなる

㊦「心配・困惑」を表す表現。

A = 「人」の場合、Aには、「かつての知り合い・有名人」等が入る。

(ex) What will become of the world in 10 years? 10年後の世界はどうなるだろう

Do you know what has become of him? 彼がどうなったか知っているかい

13 名詞と間違えやすい副詞。

upstairs「二階に(上の階に)」 indoors「屋内で(に)」 home「家に」 downtown「繁華街に」

downstairs「下の階に」 outdoors「屋外で(に)」 next door「隣に」 overseas「海外で(に)」

abroad「海外へ(に)」

㊦home は go, come など、「発着往来」を表す動詞と共に用いる場合、副詞になる。

(ex) I went [×to] abroad. 僕は外国に行きました

He carried the bag [×to] upstairs. 彼は二階に(まで)カバンを運んだ。

㊦副詞は前置詞を必要としない。上例でも前置詞を入れるのは間違い。

英熟語スーパーチェック

チェックテスト 1

1.以下の①～⑳の語の意味に近い単語を、(a)～(t)の中から選びなさい。

- | | | |
|------------------------|------------------|-------------------|
| ① give in to A | ⑧ go through A | ⑮ care for A |
| ② set out[off] | ⑨ make out A | ⑯ take after A |
| ③ call for A | ⑩ take part | ⑰ account for A |
| ④ come by A | ⑪ put off A | ⑱ catch up with A |
| ⑤ look on[upon] A as B | ⑫ do away with A | ⑲ look into A |
| ⑥ make much of A | ⑬ put out A | ⑳ put up with A |
| ⑦ bring up A | ⑭ ring up A | |

- | | | | |
|----------------|------------------|-------------------|-----------------|
| (a)demand A | (f)regard A as B | (k)abolish A | (p)experience A |
| (b)like A | (g)telephone A | (l)start | (q)examine A |
| (c)obtain A | (h)tolerate A | (m)surrender to A | (r)resemble A |
| (d)participate | (i)understand A | (n)extinguish A | (s)overtake A |
| (e)postpone A | (j)value A | (o)explain A | (t)rear A |

2. () 内に適語を入れよ。

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ① memorize A = () A by heart | ⑫ get on well with A
= () () with A |
| ② cancel A = () off A | ⑬ remove A = () () of A |
| ③ die = () away | ⑭ deceive A = () in A |
| ④ submit = () in | ⑮ produce A = () out A |
| ⑤ crack = () way | ⑯ understand A = () out A |
| ⑥ abandon A = () up A | ⑰ establish A = () up A |
| ⑦ execute A = () out A | ⑱ invent A = () up A |
| ⑧ continue = () up | ⑲ compensate for A
= () () for A |
| ⑨ maintain A = () on A | |
| ⑩ indicate A = () for A | |
| ⑪ take advantage of A = () use () A | ⑳ do without A = () with A |

3.以下の①～⑳の語の意味として正しいものを、(a)～(t)の中から選びなさい。

- | | | |
|-----------------|---------------------|----------------------------|
| ① break down | ⑧ cut down A | ⑮ put A aside[away] |
| ② break into A | ⑨ see A(人) off | ⑯ lead to A |
| ③ break out | ⑩ find fault with A | ⑰ keep off A |
| ④ bring about A | ⑪ have A in common | ⑱ leave out A |
| ⑤ call for A | ⑫ get over A | ⑲ look forward to A/doing～ |
| ⑥ come about | ⑬ give rise to A | ⑳ keep up with A |
| ⑦ come around | ⑭ go on (～ing) | |
- =come to oneself[one's senses]

- | | | | |
|--------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|
| (a)戦争、火事などが起こる | (g)正気づく、意識を取り戻す | (l)Aを近付けない/入らない | (r)Aを省略する |
| (b)Aを要求する(require) | (h)故障する、壊れる、泣き崩れる | (m)Aを克服する、回復する | (s)Aをもたらす、引き起こす |
| (c)Aを削減する(reduce) | (i)起こる、生じる(happen) | (n)Aを生じさせる、もたらす | (t)①A(お金などを貯える、取っておく) |
| (d)Aを見送る | (j)Aを共有している | (o)(～し)続ける | ②Aを片づける、脇にどかす |
| (e)Aに押し入る | (k)①Aに通じる | (p)A/～するのを楽しみに待つ(する) | |
| (f)Aの粗(あら)を捜す | ②Aをもたらす、引き起こす | (q)Aに遅れずについていく | |

チェックテスト2

1.以下の①～⑳の語の意味として正しいものを、(a)～(t)の中から選びなさい。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ①look over A | ⑪run out of A |
| ②look up A in the B | ⑫put A together |
| ③take A for B | ⑬put up (at A) |
| ④look into A | ⑭refrain from A |
| ⑤refer to A | ⑮see to A |
| ⑥when it comes to A | ⑯count on A |
| ⑦care for A | ⑰on account of A |
| ⑧don't care for A | ⑱take off A |
| ⑨be concerned about A | ⑲keep to A |
| ⑩go off | ⑳be likely to do[原形]～ |

- | | | |
|--|------------------------------------|-------------------|
| (a)Aが嫌いである | (h)(Aに)泊まる | (n)Aの話となると |
| (b)(弾が)発射される | (i)Aのために、Aの理由で | (o)Aのことを心配する |
| (c)①AをBとみなす
②AをBと間違える=mistake A for B | (j)①Aについて述べる(言及する)
②Aを参照する(調べる) | (p)Aを使い果たす、Aがなくなる |
| (d)Aの世話をする | (k)①Aの世話をする
②Aをうまく処理する、取り計らう | (q)A(規則等)に従って行動する |
| (e)A(電話番号・単語等)をB(辞書等)で調べる | (l)脱ぐ | (r)Aを組み立てる |
| (f)～する可能性がある | (m)ざっと目を通す | (s)Aに頼る、依存する |
| (g)Aを調査する | | (t)Aを控える、慎む |

2.以下の①～⑫の語の意味に近い単語を、(a)～(t)の中から選びなさい。

- | | | |
|---------------------|----------------|----------------------|
| ①stand for A | ⑤work out A | ⑨take in A (答えは3つある) |
| ②stand by[up for] A | ⑥take to A | ⑩come near A |
| ③see to A | ⑦pick up A | ⑪meet A by chance |
| ④show off | ⑧show[turn] up | ⑫find fault with A |

- | | | | |
|-----------------|--------------|------------------|-------------------------|
| (a)display | (e)deceive A | (i)encounter A | (m)like A |
| (b)look after A | (f)signify A | (j)make out A | (n)complain of[about] A |
| (c)approach A | (g)support A | (k)accept A | |
| (d)solve A | (h)appear | (l)meet A by car | |

3.以下の英文を和訳しなさい。

- ①It occurred to me that he might solve the problem.
- ②Rumor has it that she was an actress when young.
- ③How on earth did you come by the ring?

解答

チェックテスト 1

1.

①	(m)	②	(l)	③	(a)	④	(c)	⑤	(f)	⑥	(j)	⑦	(t)
⑧	(p)	⑨	(i)	⑩	(d)	⑪	(e)	⑫	(k)	⑬	(n)	⑭	(g)
⑮	(b)	⑯	(r)	⑰	(o)	⑱	(s)	⑲	(q)	⑳	(h)		

《解説》

- ① give in[way] to A 「Aに屈する、譲歩する」 =surrender to A, submit to A
 ② set out[off] 「出発する、～を手がける」
 ③ call for A 「Aを要求する」 cf:call off A「中止する」=cancel A
 ④ come by A 「Aを手に入れる」 =get A, gain A
 ⑤ look upon[on] A as B 「AをBとみなす」 =regard A as B =see[view] A as B
 =think of A as B =take A for B
 =consider A B
 ⑥ make much of A 「Aを重視する」 ⇔make little of A 「Aを軽視する」
 =think lightly of A 「Aを軽視する」
 cf:make nothing of A (1)「Aがまったくわからない」
 (2)「Aを何とも思わない」
 ⑦ bring up A 「Aを育てる」 =rear A, raise A
 cf:grow up 「育つ」=be brought up
 =be raised
 ⑧ go through A 「Aを経験する」 =undergo A, experience A
 ⑨ make out A 「Aを理解する」 =see A, grasp A, catch A, figure out A
 ⑩ take part 「参加する」 cf:take part in A「Aに参加する」
 =participate in A
 =join A
 ⑪ put off A 「Aを延期する」
 ⑫ do away with A 「Aを廃止する」
 ⑬ put out A 「Aを消す」 =extinguish A
 cf:put on A「Aを着る」
 ⑭ ring up 「電話する」 =call (up)
 ⑮ care for A (1)「Aの世話をする」 (2)「[否定・疑問・条件節]Aを好む」
 ⑯ take after A 「Aに似ている」
 ⑰ account for A 「Aについて説明する」 =explain A

☞Aに「数詞・割合」が入ると「A(の割合)を占める」という意味になる。

(ex) The company accounted for 90 percent of pen sales in the U.S.

その会社は米国の万年筆の売り上げの90パーセントを占めた

☞また「名詞」のaccountを用いたイディオムも頻出。

(1)take A into account「Aを考慮に入れる」=take A into consideration
=consider A

(2)on account of A「Aのために」=because of A

⑱ catch up with A「Aに追いつく」

☞「動詞+up with A」のイディオムは要注意

(1)keep up with A「Aに遅れずについていく」=keep abreast of A
=keep pace with A

(2)come up with A (1)「Aに追いつく」

(2)「Aを思いつく、提案する」=propose A

(3)put up with A「Aを我慢する、Aに耐える」

⑲ look into A 「Aを詳しく調べる、調査する」=examine A =study A
=investigate A =survey A
=inquire into A

⑳ put up with A 「Aに耐える、我慢する」=bear A =endure A
=tolerate A =stand A

2.

①	learn	②	call	③	pass	④	hand[turn]	⑤	give
⑥	give	⑦	carry	⑧	keep	⑨	carry	⑩	stand
⑪	make	of	⑫	get	along	⑬	get		rid
⑭	take	⑮	turn	⑯	make[figure]	⑰	set		
⑱	make	⑲	make	up	⑳	dispense			

《解説》

①learn A by heart 「Aを暗記(暗唱)する」

③pass away 「死ぬ」=breathe one's last

④submit A (1)「Aを提出する」=hand in A
=turn in A

(2)[submit to A]「Aに屈伏する」=give way to A
=give in to A
=yield to A

☞yieldは「yield A」で「Aを生み出す」という意味もある。=produce A

- ⑤crack 「割れる」
- ⑥abandon A 「Aをあきらめる、やめる」
- ⑦carry out A 「A(計画・職務など)を実行する、成し遂げる」 = fulfill A = go through with A
 ☞ 「A(目的・願望等)を成し遂げる」は achieve[attain, accomplish] A.
- ⑧keep up 「続く」
- ⑨carry on A 「Aを続ける」
- ⑩stand for A 「Aを示す、意味する、象徴する」 = represent A
- ⑪take advantage of A (1) 「Aにつけこむ」
 (2) 「Aを利用する」 = make use of A
 cf: make the best of A(不利な条件) 「Aを最大限に利用する」 「Aをなんとか乗り切る」
 make the most of A(有利な条件) 「Aを最大限に利用する」
- ⑫get on well with A(人) 「Aと仲良くやっていく」
- ⑬get rid of A 「Aを取り除く」
- ⑭take in A (1) 「Aを受け入れる」
 (2) 「Aをだます」 ☞ 「be taken in:だまされる」と、受身で使うのが普通。
 (3) 「Aを理解する」 = understand A
- ⑮turn out (1) [turn out O] 「Oを生産する」
 (ex) The factory turns out the machine. 「その工場は、その機械を生産している」
 (2) [turn out (to be) C] 「Cだとわかる、判明する」 = prove (to be) C
 (ex) The news turned out (to be) false. 「その知らせは、誤りであることが判明した」
- ⑰set up A 「Aを設立する、確立する」
- ⑱make up A 「Aをこしらえる、考え出す、でっちあげる」
- ⑲make up for A 「Aを補う、償う、Aの埋め合わせをする」
- ⑳dispense with A 「Aなしで済ます」
 cf: A is indispensable to B 「AはBにとって必要不可欠である」

3.

①	(h)	②	(e)	③	(a)	④	(s)	⑤	(b)	⑥	(i)	⑦	(g)
⑧	(c)	⑨	(d)	⑩	(f)	⑪	(j)	⑫	(m)	⑬	(n)	⑭	(o)
⑮	(t)	⑯	(k)	⑰	(l)	⑱	(r)	⑲	(p)	⑳	(q)		

《解説》

- ① cf: be out of order 「故障している」 ⇔ be in good order 「正常だ、調子が良い」
 There is something wrong with A 「Aはどこか具合が悪い」
 =Something is wrong with A

- ④ =cause A
 =lead to A
 =give rise to A
- ⑩ =criticize A「Aを批判する」
- ⑫ =overcome A
 =get the better of A
- ⑮ put A aside[away] ①「Aを片づける、脇にどかす」
 ②「A(金等)を(将来のために)取っておく、蓄える」 =set A aside
 =lay A aside[away/by]
- ⑱ =omit A「Aを省く、Aを見落とす」
- ⑲ =expect A
 =anticipate A

チェックテスト2

1

①	(m)	②	(e)	③	(c)	④	(g)	⑤	(j)	⑥	(n)	⑦	(d)
⑧	(a)	⑨	(o)	⑩	(b)	⑪	(p)	⑫	(r)	⑬	(h)	⑭	(t)
⑮	(k)	⑯	(s)	⑰	(i)	⑱	(l)	⑲	(q)	⑳	(f)		

《解説》

① look over (1)(自)「ざっと目を通す」 (2)(他)「～を調べる」 =examine
 =check
 =look into

② look up A(単語等) in the dictionary「Aを辞書で調べる」
 cf:consult a dictionary for A「Aを調べるために辞書を引く」
 consult with A(人)「Aに相談する」

look up to A「Aを尊敬する」 =respect A
 ⇔ look down on A「Aを軽蔑する」
 ⇔ despise A「Aを軽蔑する」

look after A「Aの世話をする」 =take care of A
 =care for A
 cf:keep an eye on A「Aから目を離さない」

look for A「Aを捜す」 =search for A
 look to A(人) for B(物事)「AにBを頼る、当てにする」

⑤ cf:refer to A as B「AをBだと言う」

⑨=be anxious about A

=be worried about A

cf:care about A [否定文・疑問文で]「Aのことを気にかける」

⑩=use up A「Aを使い果たす」

cf:run[be] short of A「Aが不足する[している]」

run a risk 「危険を冒す」

run A(会社・店等) 「Aを経営する」 =manage A

⑭refrain from A =keep from A

⑮cf:see [to it] that S+V~「~するよう取り計らう」

=make sure that S+V~

⑯count on A =depend on A =rest on A

=be dependent on A =look to A

=rely on A ⇔be independent of A「Aから独立している」

⑰take off A (1)「Aを脱ぐ」 =remove A

(2)「自動詞として」離陸する ⇔land「着陸[上陸]する」

⑲cf: keep to the left[right]「左側[右側]通行する」

2.

①	(f)	②	(g)	③	(b)	④	(a)	⑤	(d)	⑥	(m)	⑦	(l)
⑧	(h)	⑨	(k)	(e)	(j)	⑩	(c)	⑪	(i)	⑫	(n)		

《解説》

①signify A (1)「Aを表わす」=represent A

(2)「Aを意味する」

②stand by A「Aを支持する」

③see to A (1)「A(人)の面倒を見る」

(2)「A(仕事)をうまく取り計らう」 cf: see to it that S+V~「~するよう取り計らう、気をつける」

④show off「見せびらかす」

⑤work out (他)(1)「Aを苦勞して解く」=solve A

(2)「A(計画等)を練って作る」

(他)(1)「(物事が)うまくいく」 (2)「(事が)~という結果になる」 (3)「(-連の)トレーニングをする」

⑥take to A (1)「Aが好きになる」 (2)「Aにふける」

⑦pick up A (1)「Aを拾いあげる」

(2)「Aを(安く)手に入れる」 =get A by chance

=come by A

(3)「A(習慣・知識・情報等)を身につける」

(4)「A(人)を車で拾う[迎えに行く]、乗せる」

⑧ show up 「現われる」 =turn up, appear

⑩ come near A (1)「Aに近づく」

(2)[come near [in] doing～] 「もう少しで～する」

⑪ meet A by chance 「Aに偶然出くわす」

=encounter A =run across A

=come across A =happen to meet A

=run into A

⑫ complain of/about A 「Aについて不満をいう、批判する」

3

① 彼はひょっとしたらその問題を解けるかもしれないという考えが心に浮かんだ。

② うわさでは彼女は若いころ女優だったそうだ

③ 一体全体どうやってその指輪を手に入れたんだ

《解説》

① A(物事) occur to B(人) 「AがBの心に浮かぶ」 =A(物事) strike B(人)

=B(人) hit upon/on A(物事)

=B(人) think up A(物事)

② have it that S + V～ 「～だと言っている」

③ 疑問詞 { on earth
in the world
the hell } 疑問文の語順?
「一体全体」

☞ これらは疑問詞を強調する副詞。

come by A 「Aを(偶然)手に入れる」

頻出類義語スーパーチェック

1. 「動詞」編

(1) 「借りる」「貸す」

- ① borrow 「(無料で) 借りる」 [通例場所の移動を伴う] (ex) 本など
(ex) He borrowed money from his friend. 彼は友人から金を借りた
☞ 「borrow A(物) from B(人等) : BからAを借りる」。
- ② use 「(無料で) 借りる」 [その場で] (ex) 電話など
- ③ hire 「(有料で) 借りる」 [短期間] (ex) 車、ボートなど
- ④ rent 「(有料で) 借りる」 [家・土地を長期間]
- ⑤ owe A(人) B(金等) = owe B(金等) to A(人) 「AにBの借りがある、AにBを借りている」
☞ owe には「owe A(物事) to B(人) 「AはBのおかげだ」という語法もある。P11の11.を参照せよ。

- ① lend 「貸す」 [物を貸す場合には無料で、金を貸す場合には利息を取って貸す場合にも用いられる]

(ex) Lend me your book. 君の本を私に貸してくれ
= Lend your book to me.

☞ 「lend A(人) B(物・金) : AにBを貸す = lend B(物・金) to A(人)」。

- ② loan = lend

- ③ rent 「貸す」 [有料で物や家屋・土地、車などを貸す場合に限られる]

☞ 「家・土地」関連は「貸す」も「借りる」も rent と覚えよう。

(2) 「合う」

- ① fit 「(型と型が) 合う」
- ② match 「(物と物、色と色が) 合う、調和している」 = go with
- ③ suit 「(服と人・言動と人が) 似合う、似つかわしい」 = become
- ④ A(気候・食物) agree with B(人) 「AがBの体質に合う」 ☞ 否定文でよく用いる。
- ⑤ adapt[adjust] oneself to A(環境など) 「Aに順応[適応]する」

(3) 「書く」「描く」

- ① write 「(文字・文章・書物を) 書く」
- ② draw 「(線で絵・図などを) 書く[描く]」
- ③ paint 「(色を塗って絵などを) 描く」

(4) 「傷つける」

- ① injure : 1. 「[事故などで] (人の体を) 傷つける」

- =hurt 2. 「(感情・健康・名声など)を傷つける」 ㊦hurtは「健康を傷つける」には用いない。
- ②wound 「[武器、刃物などで] (人の体を) 傷つける」
 (ex) I was injured[×wounded, ×damaged] in the accident.「その事故でけがをした」
- ④damage 「(建物・車などを) 傷つける、損害を与える」
- ⑤destroy 1. 「(建物・物などを) 破壊する、壊す」
 2. 「(希望・計画などを) 台無しにする」
- ⑥spoil 1. 「(価値を) そこなう、駄目にする」 ㊦機械・道具などには用いない
 2. 「(人間を) 甘やかす」

(5) 「疑う」

- ①doubt =don't think。つまり「思わない」という意味。
- ②suspect =think。つまり「思う」という意味。
- ③wonder 「不思議に思う」
- ④challenge 「(正当性などに)異議を唱える、疑う」

(6) 「～かかる」

- ①「時間・労力などがかかる」は take。
 It takes [A(人)] B(時間・労力など) to do[原形]～。 「[Aが]～するのにBかかる」
 =It takes B(時間) for A(人) to do[原形]～。
 (ex) It took me two hours to read the magazine.
 =It took two hours for me to read the magazine.
 その雑誌を読むのに2時間かかった
- ②「金・労力・犠牲などがかかる」は cost。
 It costs [A(人)] B(金・労力など) to do[原形]～。 「[Aが]～するのにBかかる」
 ㊦活用は cost - cost - cost 。
 ※cost には It cost B(金) for A(人) to do[原形]～. という語法はない。
 (ex) It cost me two dollars to repair the shoes.
 その靴を修理するのに2ドルかかった
 ㊦cost と混同しやすい動詞として charge の語法がある。charge の場合、「人・店など」が主語で「A(人)にB(代金)を請求する」となる。cost の場合「物」が主語で「A(人)にB(代金)を要する(かかる)」となる。
 (ex) The garage charged him six dollars for the repair of his car.
その修理工場は、車の修理代として彼は6ドル請求した
That car must have cost you at least 8,000 dollars.
その車は、少なくとも8千ドルはしたでしょう
 ㊦また cost は cost A(人) B(犠牲) で「AにBの犠牲を強いる」という語法もある。
 P14を参照せよ。

(7) 「～になる」「～するようになる」

① become C [名詞・形容詞・分詞] 「Cになる」 ㊦ becomeの後に不定詞はこない。

② come[get] to do [原形]～ 「～するようになる」

≡ learn to do～ : [学習を通じて]～するようになる

(ex) Little by little, she came [×became] to like him.

少しずつ彼女は彼のことが好きになっ(てい)た

(8) 「ゆるす」

① allow, permit, let 「(他人の言動などを)許可する」

② forgive, excuse, pardon 「(過失などを)赦す、勘弁する」

㊦ forgiveの仲間後ろが「A(人) for B(過失)」となることが多い。

③ admit ① 「(しぶしぶ～を)認める」 ② 「(入学等を)許可する」

(9) 「見る」「聞く」

① see 「(無意識に)目に入ってくる」 ㊦ 進行形にできない。

② look 「(意識して)見る」 ㊦ 進行形にできる。

㊦ watchも「(意識)して見る」の意味だが、特に「動いているもの(スポーツ・TV等)を見る」こと。

① hear 「(無意識に)耳にする、聞こえる」 ㊦ 進行形にできない。

② listen to 「(意識して)聞く」 ㊦ 進行形にできる。

(10) 「教える」

① tell, show 「(道順などを)教える」 ㊦ 「道を教える」くらいではteachは使わない。

② teach 「(知識・教訓などを)教える」 したがってTeach me the way.は間違い。

(11) rob と steal

① rob A(人) of B(物事) 「AからBを奪う」

㊦ 受身は「A(人) is robbed of B(物事): AはBを奪われる」。

② steal A(物) from B(人) 「AをBから盗む」 steal - stole - stolen

㊦ 受身は「A(物) is stolen from B(人): AがBから盗まれる」。

③ have A(物) stolen 「Aが盗まれる」

○ C ㊦ 使役動詞の「have+O+C[p.p.]: OをCされる」を用いた形。

(12) bring, take など

① carry 「運ぶ」

② bring 「持って 連れてくる」

③ take 「持って 連れて行く」

④ fetch 「行って取って来る」

(13) 「驚く」

①surprise A(人) 「Aを驚かす」 =amaze, astonish, alarm, startle

②marvel at A 「Aに驚く」

☞marvelは「自動詞」なので、後ろに目的語(名詞)をとらない。

またsurpriseは「A(人)を驚かす」という意味の「他動詞」なので、「驚く」という意味で使う場合には受け身にする必要がある。

(ex) I was surprised at the news. 私はその報せに驚いた
=I marveled at the news.

(14) 「着る」と「着ている」

①put on 「着る」 (”着る”という一回の動作、行為を表す)

②wear 「着ている」 (”着ている”状態を表す。一時的に身につけてるという意味ではbe wearingでも可)

(15) 「感謝する」

○I appreciate your kindness. ☞ appreciate は「物」しか目的語にとれない

×I appreciate you for your kindness.

○Thank you for your kindness. ☞ thank は「人」しか目的語にとれない

×Thank your kindness.

2. 「名詞」編

(1) 「客」

① visitor 1. 「訪問客」

2. 「観光客」

② guest 1. 「招待客」 ☞ 逆に、招いた側のことは host, hostessという。

2. 「ホテルの客」

③ customer 「(商店などの)顧客」

④ client 「(医者・弁護士などの)患者・依頼人」

⑤ spectator 「(スポーツの試合などの)観戦客、見物人」

⑥ audience 「(コンサートなどの)観客、聴衆」

⑦ passenger 「乗客」

⑧ commuter 「通勤客」

(2) 「料金」等

①charge 「(サービスに対する)料金、手数料、使用料」

②cost 「費用、原価」

③debt 「借金」

④fare 「(交通機関の)運賃」

- ⑤fee 1. 「入場料、入学金(=admission fee)」
2. 「授業料(=school fee)」
3. 「(弁護士、医者等への)謝礼」
- ⑥fine 「罰金」
- ⑦postage 「郵便料金」
- ⑧price 「(物の) 価格」
- ⑨rate 「光熱費や電話代など」
- ⑩interest 「利子、利息」
- ⑪tax 「税金」
- ⑫toll 「(道路などの)通行料、使用料」
- ⑬bill 「勘定書、請求書」
(ex) a gas[water, hotel] bill 「ガス[水道、ホテル]代」

(3) 「影」

- ①shadow 「(形としての) 影、影法師」
- ②shade 「(陽のあたらない) 陰、日陰」
(ex) We rested in[under] the shade[×shadow] of the trees.
私達は木陰で休んだ

(4) 「約束」

- ①promise 「約束」
- ②appointment 1. 「(病院・美容院などの) 予約」
2. 「人と会う約束」
- ③subscription 「(新聞・雑誌などの講読の) 予約」
- ④reservation 「(座席・ホテルなどの) 予約」

☞「Aを予約する」については以下の3通りの表現をおさえたい。

make a reservation for A

=reserve A

=book A ☞ 動詞のbookは「予約する」。要注意!

(5) 「サイン」

- ①sign 「合図」「星座」「兆候」「標識」 signに「署名」という意味はない!
- ②signature 「(書類などにする) サイン、署名」
- ③autograph 「(有名人などからもらう) サイン」

(6) 「習慣」

- ①habit 「(個人の無意識的な) 習慣」

- ②practice 「(個人が意識的に身につける) 習慣」
- ③custom 「(社会的・文化的な) 習慣、慣習」 =convention
 ④したがって「日本人が屋内で靴を脱ぐ」などは custom になる。
 (ex) European custom[×habit] 「ヨーロッパの習慣」

(7) 「移民」

- ①immigration 「(外国からやってくる) 移民」
- ②emigration 「(外国へ出てゆく) 移民」

(8) 「天気」「天候」

- ①weather 「天気」 [不可算名詞]
- ②climate 「気候・風土」 [可算名詞]

(9) 「景色」

- ①view 「ある特定の場所から見える限られた景色」
- ②scene 1. 一目で見渡せる個々の景色、情景
 2. 事件等の) 現場
 3. 場面
- ③sight 「見たままの光景そのもの」
- ④scenery 「一地方の自然の風景全体を指す」 ④だけは「不可算名詞」!

3. 「形容詞」「副詞」編

(1) 「早い」「速い」(early, soonは時間的に「早い」のに対し、fast, quickly等は動作・速度等が「速い」)

- ①early 1. 「(予定・定刻より) 早く」 =soon ⇔late
 (ex) How early[soon] will the show begin?
 ショーはいつごろ始まりますか
 2. 「(ある限定された期間内の) 早い時期に」 ⇔late
 (ex) early[×soon] morning 早朝
 early[×soon] in the evening 夕方の早い時間
- ②soon 1. 「(予定・定刻より) 早く」 =early
 2. 「(ある時点から時間をおかないで) 早く、すぐに」
 (ex) Please come soon[×early]. すぐ来てください
- ③fast 「(運動・速度が) 速い、機敏な」 ⇔slow
 ④「時計が進んでいる(はやい)」も、fast を用いる。⇔slow
 (ex) This watch is three minutes fast.
 この時計は3分進んでいる

④quickly,rapidly,swiftly 「(動作などが) 速く、機敏に」

(2) 「高い」「安い」

①「高い」「低い」を「high ⇔ low」で表す名詞。

値段[price] 給料[salary] 賃金[pay / wage] 温度[temperature]

収入・給与[income / salary]

②「salary」「income」は「large ⇔ small」を用いてもいい。「(値段が)手ごろな」は「reasonable/affordable」。

②「品物」などが「高価だ」「安価だ」という場合には「expensive(高価な)」「cheap / inexpensive(安価)」で表す。

(3) 「多い」「少ない」

①「多い」「少ない」を「large ⇔ small」で表す名詞。

聴衆 [audience] 収入[income] 家族[family] 人口[population] 数[number]

給料[salary] 群衆[crowd]

②不可算名詞(数えられない名詞)は「多い」「少ない」を「much ⇔ little」で表す。

③可算名詞(数えられる名詞)は「多い」「少ない」を「many ⇔ few」で表す。

④「交通量(traffic)」が「多い」「少ない」は「heavy ⇔ light」で表す。

⑤ただし、street「通り」の人通りが多い場合にはbusyを用いる

(ex) a busy street :にぎやかな通り、繁華街

The street was busy. 通りは(人通りが)にぎやかだった

⑤「頻度」が「多い」「少ない」は「often,frequent ⇔ rare」で表す。

(4) 「かしこい」

①wise … 知識・経験が豊富で正しい判断ができること =sensible

②clever/ smart … 知的に頭の回転が早いこと。ずるがしこい、抜け目ないという意味になることもあり。

③bright/ brilliant … 頭がいいという意味だが、子供に対して用いる。

④intelligent … 生まれつき知能が高いこと。

(5) 「遅い」

①「時間」が遅い… late - later - latest

②「順序」が遅い… late - latter - last

その他の頻出英熟語スーパーチェック

1.動詞句

- add to A : A(数・量等)増加する =increase A
- add A to B : AをBに加える
- add up to A : ①合計Aになる ②結局Aの結果になる =end up in A
- apply for A : A(職・地位)に申し込む、志願する
cf: apply A to B: AをBに適用(応用)する
- adapt (oneself) to A : A(環境など)に順応する、適応する
=adjust (oneself) to A
- amount to A : ①合計がAに達する ②(内容・価値の点で)結局Aに(等しく)なる
- bear[keep] A in mind : Aを心に留めておく、Aを覚えておく
☞「bear[keep] it in mind that S+V～」という形もある。
- be absorbed in A : Aに没頭[熱中]している
=be keen on A
=be hooked on A
=be involved in A
=addict oneself to A ☞addictは通例、悪い意味で用いられる
- be aware of A : Aに気づいている
- be fed up with A : Aにうんざりだ
- be likely to V[原形]～ : ～する可能性がある
- believe it or not, : 信じようと信じまいと
- break into A : ①A(会話など)に口をはさむ =cut into A
②(家などに)侵入する、押し入る
- break down : 故障する
- break out : (災害・戦争が)勃発する
- break up : (人間関係などが)ダメになる、こわれる、くずれる
- cannot help Ving～ : ～せずにはいられない =cannot but V[原形]～
- catch sight of A : Aを見つける ⇔lose sight of A:Aを見失う
- come about : 発生する =occur,happen,take place
- come up to A(期待等) : Aに添う、応える =meet A,live up to A
- come out : (花が)咲く =bloom
- cope with A : Aに(を)うまく対処する =handle A, manage A
- cut off A : Aをさえぎる =obstruct A
- deal with A : Aを処理する、扱う =manage A
- deal in A(商品) : Aを商う、売っている

devote[dedicate] oneself to A :Aに没頭[専念]する =be devoted[dedicated] to A
distinguish A from B :AとBを区別する、識別する
 =tell A from B
 =discern A from B
 =distinguish between A and B
do nothing but V[原形]~:~ばかりする ㊦ このbutは「~(する)以外」。全体の直訳は「~する以外何もしない」。
drop in on[at] A :Aに(ちょっと)立ち寄る ㊦ on A(人)/ at A(場所)
find out A :Aに気付く、発見する =discover A
fill out : (用紙に必要事項を)記入する
get away :逃げる =escape
get hold of A :①A(考)を理解する ②A(物)をつかむ、手に入れる
get in touch with A :Aに連絡をする(とる)
 cf: keep in touch with A:Aと連絡を保つ
give away A :Aを配る =distribute A
go through A :①Aを通り抜ける、通過する ②A(苦難など)を経験する
go with A :Aと調和する、似合う =match A
have A in common:Aを共有する
have a flat tire :(タイヤが)パンクする
have no choice but to V[原形]~:~せざるを得ない
have trouble[problem] (in) Ving~:~するのに苦労する
hold good[true] :(規則などが)あてはまる、有効である
insist on A :Aを主張する
keep an eye on A :Aから目を離さない
keep away from A :Aを差し控える =refrain from A
keep off :近寄らない
keep one's word[promise]:約束を守る ⇔break one's word[promise]:約束を破る
keep one's temper :平静を保つ ⇔lose one's temper:平静を失う、怒る
know better than to V[原形]~:~するほど馬鹿ではない
know better :分別がある
leave A behind :Aを忘れる、置いていく
leave nothing to be desired:申し分ない
major in A :A(学問)を専攻する =specialize in A
make believe (to V[原形]~):(~する)ふりをする =pretend (to V[原形]~)
make for A :Aの方に進む
make fun of A :Aをからかう =ridicule A
make no difference :重要ではない =do not matter
make oneself+過去分詞 :自分自身を~してもらう

會「過去分詞」の部分にはunderstood, heard等がくることが多い。

(ex) I couldn't make myself understood in English.

私は英語で自分自身(の考え)を理解してもらえなかった

make sense : ①(話・文章などが)意味をなす ②賢明である、道理に合う

make sure of A : ①A／～を確かめる

=make sure (that) S+V～ ②Aを確保する、確実に～するよう手配する
=see [to it] that S+V～

make up one's mind : 決心する =decide, resolve

pay attention to A : Aに注意を払う

persist in A : Aに固執(執着)する

pick out A : Aを選ぶ =select A, choose A

point out A : Aを指摘する

prevent A from Ving～: Aが～するのを妨げる
=keep A from Ving～
=stop A from Ving～
=hinder A from Ving～

pull down A : Aを取り壊す =destroy A

set in : (季節が)始まる =begin

speak ill of A : Aをけなす =despise A

speak well of A : Aを誉める =praise A, admire A

stay away from A : Aを欠席する =miss A, be absent from A

stick to A : Aに固執する、守る =cling to A

會Stick to it! で「頑張れ」(「it[=現在の状況]にしがみつけ」が直訳)。Hang in (there).
とも言う。

take away A : Aを運び去る、取り除く =remove A

take A for granted : Aを当然とみなす、考える

cf; take it for granted that S+V～: ～を当然とみなす

take on A : ①A(性質・特徴等)を帯びる =assume A

②A(仕事・責任)を引き受ける =undertake A

③A(人)を雇う =hire A

take over A : A(仕事・事業など)を引き継ぐ =succeed to A

take place : 起こる、催される =happen, be held

take the place of A : A(人・物)の代わりにする、Aに取って代る
=replace A =take A's place
=substitute for A

take turns [in] Ving～: 交替で～する

talk A into Ving～ : Aに～するよう説得する =persuade A to V [原形]～

talk A out of Ving~ :Aに~しないよう説得する =persuade A not to V [原形]~
think better of A :Aを考え直してやめる
turn a deaf ear to A :Aに耳を貸さない、無視する
turn around :振り向く
turn down A :Aを却下する、拒絶する =reject A ㉸rejectは他動詞用法のみ。
=decline A decline, refuse は自動詞と
=refuse A しても用いる。
turn on A :A(水道・ガス・電化製品など)のスイッチを付ける ⇔ turn off A
turn to A :Aに頼る =look to A
watch[look] out! :気をつけろ!
watch[look] out for A :Aに用心する、注意する
wind up A :Aをしめくくる、終わる =conclude A
=finish A

2.形容詞句

be at a loss :途方に暮れる =be perplexed, be upset
be the case :実情だ、本当だ =be true
feel at ease :安心する、落ち着く =be comfortable
⇔ feel ill at ease:落ち着かない、居心地が悪い
=feel out of place
be at home in A :Aに精通している =be familiar with A
beyond description :比類ない、筆舌にしがたい =incomparable
in good health :健康で =healthy
in high spirits :元気がいい =cheerful
on fire :燃えて =burning
on foot :徒歩で
up to date :最新の =in fashion, modern
⇔ out of date[fashion] :時代[流行]後れの
cf; come into fashion :流行る
go out of fashion :すたれる

3.副詞句

above all (things) :とりわけ、なによりもまず
according to A :①Aによれば
②Aに従って、Aに応じて =in accordance with A
=depending on A

all but A	:①[Aが形容詞の場合]ほとんど =almost =nearly =as good as (ex) He is all but <u>dead</u> (形). 彼はほとんど死んでいる → 死んだも同然だ
	:②[Aが名詞の場合] A以外の全て (ex) All but <u>John</u> (名) were present. ジョン以外の全員が出席した
all the same	:それでもやはり =nevertheless =notwithstanding
as a matter of fact	:実は、実際のところ =actually =in fact =indeed
as a rule	:概して =usually =generally =on the whole
at any rate	:とにかく =anyway
as such	:そのようなものとして
at large	:①(犯人などが)捕まらないで、逃走中で ②[名詞の直後に置かれて]一般の (ex) the people at large:一般国民
at least	:少なくとも ⇔ at most:多くとも、せいぜい
behind one's back	:陰で、～のいないところで
by and large	:概して =in general =as a rule =generally speaking =on the whole
by chance	:偶然(に) =accidentally ⇔ on purpose:わざと =intentionally:わざと =deliberately:わざと
by degrees	:徐々に =gradually
by nature	:生れつき =innately
by no means	:決して(全く)～ない =anything but =far from
by turns	:かわるがわる、順番に
for good	:永遠に =forever, permanently

for nothing :①ただで =free
 ②無駄に =in vain
 from time to time :ときどき =frequently
 in advance :前もって =beforehand
 in any case :ともかく、どんな事情にせよ =anyway
 in detail :詳細に、細かく
 in return :見返りに、お礼として
 in the long run:結局、長い目で観れば =after all
 in the way :邪魔になって
 in turn :順番に
 more often than not :しばしば =frequently
 more or less :多かれ少なかれ
 no doubt :疑いなく =undoubtedly
 now and then :時々 =sometimes
 on end :続けて =together
 on purpose :わざと =intentionally
 =deliberately
 on second thought(s) :考え直して
 on the contrary :それどころか、これに反して
 on the spot :即座に =instantly
 one after another :次から次へと
 one by one :個々に =singly
 only too :とても =very
 so far :今までのところ(は)
 to excess :過度に =excessively
 to the letter:文字どおりに =literally
 to some degree[extent] :ある程度(まで)
 to A's 感情(を表す)名詞 :Aが〇〇なことには =to the 感情(を表す)名詞 of A
 under[lin] no circumstances :どんなことがあっても(～ない)
 what is more :更に、おまけに =furthermore =besides
 =in addition =moreover
 without doubt :確かに、疑いなく =certainly =beyond question
 =for sure
 cf; beside the question:的を外れた、関係のない
 in question:(今)問題となっている、当の
 out of the question:全く不可能だ(で)
 without fail :必ず

(1)at first hand 「直接、じかに」

(ex) I learned the secret at first hand from him. その秘密を彼から直接聞いた

(2)at first sight 1. 「一目で(の)」 2. 「一見したところでは」

(ex) I liked her at first sight. 私は一目で彼女が気に入った

The book looked uninteresting at first sight.

一見したところ、その本はおもしろくなさそうに見えた

(3)for the first time 「初めて」

(ex) I left Japan for the first time in ten years[in my life].

10年ぶりに[生まれて初めて]日本を離れた

Ⓧfirst が副詞として「初めて」という意味になることもある。その場合、通例動詞の前に置かれる。この first の強調形が for the first time.

(ex) I first met her five years ago. 私は5年前に初めて彼女に会った

I shall never forget the day we first met.

私たちが初めて会った日のことを決して忘れません

(4)in the first place 「まず第一に」

=to begin[start] with =first and foremost

=first of all =firstly

(ex) You should explain to me the case in the first place.

まず第一に君はボクにその件について説明すべきだ

(5)at first 「はじめのうち(は)」 ☞最頻出!!

=the first time

(ex) At first, I couldn't eat 'tofu'. 私は、初めは豆腐を食べられなかった

(6)first or last 「遅かれ早かれ」

=sooner or later

(ex) Truth will be revealed first or later.

遅かれ早かれ真実は明らかになるだろう

(7)The first[last] time S + V ~ 「はじめて[最後に]~した時」

[接]

(ex) The first time (that) I saw him, he was a small child.

初めて会ったときは彼は小さな子供だった

(8)from the first 「最初から」

(ex) Try again from the first. 最初からもう一度やってみなさい

(9)from first to last 「最初から最後まで、終始」

(ex) He remained silent from the first to last. 彼は終始黙ったままでいた

(10)This is the first time S have+p.p.～ 「Sが～するのは今回がはじめてだ」

(ex) This is the first time Tom has been upset.

トムが狼狽したのは今回が初めてだ

4.群前置詞

apart[aside] from A

①Aは別にして、Aはさておき

(ex) apart from the problem その問題はさておき

②Aに加えて、Aだけでなく =in addition to A

(ex) Apart from the color, I don't like the pattern.

色だけでなく、模様も気に入らない

according to A

①Aによれば

(ex) According to the paper, there was an earthquake in Mexico.

新聞によればメキシコで地震があったようだ

②Aに従って、Aに応じて =depending on A

(ex) You have only to work according to your ability.

自分の能力に応じて働きさえすればいい

along with A :Aと共に、Aに加えて =together with A

(ex) She ate steak, along with salad and rolls.

彼女はサラダとロールパンと一緒にステーキを食べた

apart[aside] from A

①Aは別にして、Aはさておき

(ex) apart from the problem その問題はさておき

②Aに加えて、Aだけでなく =in addition to A

(ex) Apart from the color, I don't like the pattern.

色だけでなく、模様も気に入らない

as a result of A :Aの結果として

(ex) He was late for the meeting as a result of the accident.

彼はその事故の結果、会議に遅刻した

as to A :Aに関して =about A, concerning A

(ex) We are in agreement as to the basic points.

基本的な点については合意している

as of A : A 現在で (の) 、 A (日時) から

(ex) the population as of Jan.1,1980 1980年1月1日現在の人口
at the mercy of A : A のなすがままになって

(ex) She was at the mercy of her husband. 彼女の夫のなすがままだった
at the cost[expense] of A : A を犠牲にして

(ex) Are you willing to do it at the cost of your family?
君はそれをやるのに家族を犠牲にしてもいいのか
at the end of A : A の終わりに

(ex) At the end of the meeting, he spoke about the matter.
会議の終わりに、彼はその件について話した

at the risk of A : A の危険を冒して

(ex) The man saved the drowning child at the risk of his own life.
その人は自分の生命を賭しておぼれる子供を助けた

at the sight of A : A を見て、見るや否や

(ex) The man ran away at the sight of a policeman.
その男は警官の姿を見て逃げ去った

beside oneself [with A(感情を表す名詞)] : [Aで]我を忘れる

(ex) He was beside himself with joy when he passed the exam.
彼は試験に通ったとき、喜びで我を忘れた

beyond the reach of A : A の及ばないところで

(ex) The car is priced beyond the reach of most of us.
その車は私たちのほとんどには手の届かない値がつけられている

by means of A : A の手段を用いて

(ex) We breathe by means of lungs. 我々は肺によって呼吸する

by way of A : A 経由で、A のつもりで

(ex) I went to England by way of France.
私はフランス経由でイギリスに行った

contrary to A : A に反して

(ex) He acted contrary to my wishes. 彼は私の期待に反する行動をとった

due to A : A のおかげで、A のせいで =owing to A, thanks to A, on account of A

(ex) Due to bad weather the plane was late. 悪天候のため飛行機は延着した
except for A : A を除いて

(ex) The streets were deserted except for the engineer.
修理工以外、通りには誰もいなかった

in charge of A : A を担当している、A の責任者である

(ex) Mr. Black is in charge of the class. ブラック先生がそのクラスの担任です
in connection with A : A に関連して =concerning A

(ex) Let me ask you some questions in connection with the theme.

そのテーマに関して質問させてください

in front of A : Aの正面に

(ex) I parked my car in front of the park. 私は公園の前に駐車した

in relation to A : Aに関して =regarding A =with respect to A =concerning A
=about A =in[with] regard to A
=as to A ☞as to の後ろには疑問詞句(節)がきやすい。

(ex) I have a lot to say in relation to the matter.

その件に関して言いたいことがたくさんあります

in the course of A : Aの間に =during A

(ex) He visited Sam in the course of his trip. 彼は旅行中にサムを訪問した

in the face of A : Aに直面して(も)

(ex) He was brave in the face of danger. 彼は危険に直面しても勇敢であった
in view of A

①Aを考慮して =in the light of A =considering A

(ex) In view of this situation, we should adopt the new policy.

この状況を考慮して、新政策を採用すべきである

②Aの見えるところに

(ex) The politician stood in full view of the crowd.

その政治家は群衆からよく見えるところに立った

in spite of oneself : 思わず

(ex) He burst out laughing in spite of myself. 彼は思わず笑い出した

☞これ以外に「前置詞+oneself」という形で、よく問題に問われるものもあげてみよう。

1.by oneself 1. 「一人で」「単独で」 =alone

(ex) She is living in the house by herself.

彼女はひとりでその家に住んでいる

2. 「独力で」 =without help ☞この意味ではfor oneselfと同じだが、for oneselfの場合、「自分の利益のために」といった意味合いが強い。

2.for oneself 1. 「独力で」

(ex) Do it for yourself. 自分で[独力で]やりなさい

2. 「自分のために」

(ex) He built a new house for himself.

彼は自分が住むための家を新築した

3.to oneself 1. 「自分だけに[で]」

(ex) have[keep] A to oneself 「Aを独占する」

leave A to oneself 「Aを独りぼっちにする」

=leave A alone

2. 「(自分の)心の中に[で]」

(ex) keep A to oneself 「Aを言わないでおく」

=leave A unsaid

say A to oneself 「Aだと思う」

4. come to oneself 「意識を取り戻す」「正気(本心)に立ち返る」

5. in oneself 「それ自体」 ☞英文の中ではin itself[themselves]の形で用いる。

(ex) Making money is not evil in itself.

金もうけその事自体は悪ではない

6. of[by] oneself 「ひとりでに」 ☞英文の中ではof itself[themselves]の形で用いる。

7. between ourselves 「ここだけの話だが」

8. in spite of oneself 「思わず」

9. beside oneself (with A[感情動詞]) 「(Aで)我を忘れて」

in favor of A : Aに賛成して、Aの利益になるように

(ex) I am in favor of that idea. その考えに賛成です

in addition to A : Aに加えて =besides A

(ex) In addition to good health, she has a good brain.

彼女は健康に加えて頭がよい

in honor of A : Aに敬意を表して

(ex) We celebrate Mother's Day in honor of our mothers.

私たちは母親たちに感謝して母の日を祝います

in place of A : Aの代わりに

(ex) In place of a final exam, I'd like you to write a term paper.

期末試験の代わりに君たちにレポートを書いてもらいたい

in return for A : Aのお返しに

(ex) I gave him a present in return for his favor.

私は彼の好意の返礼に贈り物をした

in company of A : Aと一緒に

(ex) I went there in company with him. 私は彼と一緒にそこに行った

in (the) light of A : Aを考慮して、Aに照らし合わせて

(ex) History should be read in (the) light of these facts.

歴史はこのような事実に照らして読まれるべきだ

in the presence of A : Aの面前で

(ex) in the presence of several VIPs 何人かの要人の集まっている前で

in terms of A : Aの観点から

(ex) We should see the disaster in terms of global warming.

我々は、地球温暖化の観点からその災害を見なければいけない

🍷termを用いたイディオムはこれ以外に以下も頻出!

1.be on ~ terms with A(人):Aと～な間柄である

☞～の部分には、以下のような語が入る。

good「良い」 speaking「話をする」

bad「悪い」 friendly「仲の良い」

(ex) We are on good terms with each other.

我々はお互い仲良くやっている

2.come to terms:合意に達する、仲直りをする

come to terms with A:Aに甘んじる、あきらめて従う[受け入れる]

(ex) You must come to terms with the fact that you will never be an actor.

君は俳優にはとうていなれないという事実を受け入れなければならない

in token of A:Aの印に[として] =as a token of A

(ex) He gave her a ring as a token of his affection.

彼は愛情の印として彼女に指輪を贈った

in want of A:Aを必要として =in need of A

(ex) We are badly in want of water. ひどい水不足である

on behalf of A

①Aのために [目的・利益]

(ex) Please behave in my behalf. 私に有利なように行動してください

②Aを代表して

(ex) I went there on behalf of John. ジョンの代理でそこへ行った

on the point of A:Aを(まさに)しようとして =on the blink of A

=on the verge of A

(ex) He was on the point of leaving. 彼はまさに立ち去ろうとしていた

prior to A:Aの前に =before A

(ex) The accident happened prior to his arrival.

その事件は彼が着く前に起こった

regardless of A:Aに関係なく、Aにかまわず =irrespective of A

(ex) The boy climbed the tree regardless of danger.

その少年は危険をものともせずその木に登った

5.前置詞によって意味や用法が変化するイディオム。

1.agree with A(人) 「Aに同意する」

agree to A(計画・提案など) 「Aに同意する」

2.be angry with A(人) 「Aに腹を立てる」

be angry at/about A(事) 「Aに腹を立てる」

3. be anxious about A(人) 「Aを心配する」
 be anxious for A(事・物) 「Aを切望する」
4. be tired[weary] of A 「Aに飽きている」
 =be fed up with A
 be tired with A 「Aに疲れている」
5. be true of A 「Aに当てはまる」
 be true to A 「Aに忠実である」
6. part from A(人) 「Aと別れる」
 part with A(物) 「Aを手放す」
7. allow for A 「Aを考慮する」
 allow of A 「Aを認める」
8. call on A(人) 「Aを訪ねる」
 call at A(場所) 「Aを訪ねる」
9. inquire after A(人) 「Aの安否を尋ねる、見舞う」
 inquire into A(事) 「Aを調べる」
 inquire of A(人) 「Aに尋ねる」
10. compare A with[to] B 「AとBを比較する」
 compare A to B 「AをBにたとえる」
11. consist in A 「Aの中にある」 =lie in A
 consist of A 「Aから成る(構成されている)」 =be composed of A
 =be made up of A
12. A(結果) result from B(原因) 「Bが原因でAが起こる」
 A(原因) result in B(結果) 「AはBの結果に終わる」
13. succeed in A 「Aに成功する」 ⇔ fail in A
 succeed to A 「Aを引き継ぐ」 =take over A
14. deal with A(問題等) 「Aを扱う、処理する、論じる」
 deal in A(商品) 「Aを商う」
15. apply A to B ①「AをBに適用する、応用する」
 ②「AをBに加える、充てる」
 apply to A 「Aに当てはまる」
 apply for A 「Aに応募する」

16.interfere with A interfere in A	「A(人)に干渉する、邪魔する」 「A(物事)に口をはさむ」
17.wait for A wait on A	「A(人)を待つ」 「A(人)に仕える、給仕する」
18.attend A attend to A attend on A	「Aに出席する」 ①「A(仕事)に精を出す」 ②「A(語)を注意して聞く」 ③「A(人)の世話をする」 ④「A(人)に給仕する」 「Aの世話をする、付き添う」
19.enter A enter into A	「Aに入る」 「A(仕事等)を始める」
20.answer A answer for A	「Aに答える」 =reply to A 「Aの責任をとる」
21.hear A hear of A hear from A	「Aの話を(直接)聞く」 「Aの消息を聞く」 「Aから便りがある」
22.search A(場所) search for A(探し物)	「Aを搜索する」 「Aを捜す」 =look for A
23.want A want for A	「Aを欲する」 「Aが不足する、Aに困る」
24.be free of A(料金・税金) be free from A(心配・危険・苦痛)	「Aがない、Aが免除されている」 「Aがない、Aに悩まされない」
25.A(人) is familiar with B(物・事) B(物・事) is familiar to A(人)	「AはBに精通している[をよく知っている]」 「 ” (BはAによく知られている)」